

専門(多肢選択式)試験問題

注意事項

- 問題は **105 題(111 ページ)** あります。次のとおり I 部、II 部及び III 部を合計して **40 題** を解答してください。
 - **I 部(必須)**
No. 1 ~ No. 5 (**5 題**) は必須問題です。受験者全員が解答してください。
 - **II 部(選択 A、選択 B から一つ選択)**
選択 A 又は選択 B のどちらか一つを任意に選択し、**15 題** を解答してください。
答案用紙の「**選択**」の欄には、「**選択 A**」を選択した場合は「**a**」、「**選択 B**」を選択した場合は「**b**」をマークしてください。**マークされた一つの「選択」以外の問題は採点されません**ので、注意してください。
選択 A (心理系) : No. 6 ~ No. 20 (**15 題**)
選択 B (教育・福祉・社会系) : No. 21 ~ No. 35 (**15 題**)
 - **III 部(14 科目から 4 科目選択)**
14 科目 70 題 (No. 36 ~ No. 105) から任意の 4 科目を選択し、計 **20 題** を解答してください。
なお、4 科目を超えて解答しても超えた分については採点されません。(解答している問題番号に対応する科目が選択されたものと認定されます。どの科目を選択したかを答案用紙に記入する必要はありません。)
- 科目別構成の詳細は、この問題集の**裏表紙**に掲載されていますので、解答開始までによく読んでおいてください。
- 解答時間は **3 時間 30 分** です。
- この問題集は、本試験種目終了後に持ち帰りができます。
- 本試験種目の途中で退室する場合は、退室時の問題集の持ち帰りはありませんが、希望する方には後ほど渡します。別途試験官の指示に従ってください。なお、試験時間中に、この問題集を切り取ったり、転記したりしないでください。
- 下欄に受験番号等を記入してください。

第 1 次試験地	試験の区分	受験番号	氏 名
	人間科学		

指示があるまで中を開いてはいけません。

I 部 (No. 1～No. 5)

I 部は**必須問題**です。これらの問題について、**全てを解答**してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 1】 次は、F. C. ドンデルスの反応時間の減算法に関する記述であるが、ア～オに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

F. C. ドンデルスは、a 法、b 法、c 法という 3 種類の反応時間課題を考案した。

a 法は、 反応時間課題とも呼ばれ、1 種類の刺激のみが現れ、刺激が現れたら反応することが求められる(刺激が現れたらボタンを押すなど)。

b 法は、 反応時間課題とも呼ばれ、複数種類の刺激が現れ、それぞれに対応した複数種類の反応が求められる(赤い刺激には「赤」ボタン、青い刺激には「青」ボタンを押すなど)。

c 法は、ゴー・ノーゴー反応時間課題とも呼ばれ、複数種類の刺激が提示されるが、そのうちの指定された種類の刺激に対してのみ反応を行う(赤い刺激が現れたらボタンを押し、青い刺激には反応しないなど)。

ドンデルスは、 では、提示された刺激を可能な刺激セットから弁別し、かつ、可能な反応セットから対応する反応を選択する必要があるため、刺激弁別と反応選択の過程が存在すると考えた。一方、 には刺激弁別は存在するが反応選択は存在せず、 には刺激弁別も反応選択も存在しないとした。

また、ドンデルスは、 と の反応時間の差は反応選択に必要な時間に相当し、 と の反応時間の差は刺激の弁別時間に相当すると主張した。

このように、異なる種類の課題の反応時間の差から、刺激弁別や反応選択に必要なとされる時間を推定できるとするのが反応時間の減算法である。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1. 単純		複雑	c 法	b 法	a 法
2. 単純		選択	b 法	a 法	c 法
3. 単純		選択	b 法	c 法	a 法
4. 高速		複雑	b 法	c 法	a 法
5. 高速		選択	c 法	a 法	b 法

【No. 2】 西洋の教育思想家に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. アリストテレスは、現実の存在は本質である質料(ヒュレー)と素材である形相(エイドス)から成ると考え、事物の存在それ自体について対話の中で問答を重ねる産婆術を通して人々は真の知に導かれると説いた。また、知恵、勇気、節制の三つの徳が正しく統御された調和の上に、国家全体としての「正義」の徳が実現されるという四徳性を重視した。
2. J. A. コメニウスは、「人間は教育されなければならない唯一の被造物である」と考え、人間の自然な資質を尊重し、これを道徳的人格にまで高めることを教育の目的とした。また、教育は万人に必要なものであると捉え、「あらゆる人にあらゆる事柄を教授する」ことを説いたことから、「万学の祖」と称された。
3. J. ロックは、経験によって外から知識や観念を与えられる前は、生まれつきの人間の心は何も書かれていない白紙の状態であるという「白紙説」を唱えた。また、紳士の教育について論じ、徳や思慮分別、社交性などを備えた紳士を育てることを目標とした。
4. J. F. ヘルバルトは、教育学の実践科学としての在り方を提起し、実現のための方法論として5段階教授法(予備－提示－比較－総括－応用)を示した。この教授方法の原理は、後に「ヘルバルト派」と呼ばれる J. H. ペスタロッチらによって整理され、発展した。
5. J. J. ルソーは、教育を人間の自然的素質に対して行う「自然的教育」と理性的存在になるための「実践的教育」に分けて捉え、理性的であるかといった人間の性格は教育や環境によって形成されるという環境決定論を主張した。このような立場から、子供の成育にとって望ましい環境を整備する重要性を説き、「性格形成学院」を創設した。

【No. 3】 次は、ライフコースに関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

ライフコースとは、年齢によって区分された生涯期間にわたる、様々な経歴の束としての人生の軌跡を指す。ライフコースの視点は、人生を特定の歴史的・ コンテキストとの相互依存関係において構築されるものと仮定し、個人の生活における出来事経験の継起とその過程を役割移行と人生軌道のパターンとして捉える。

ライフコースと は類似した概念だが、次のような違いがある。 は、生物学的な発達段階や家族の形態の変化に焦点を当て、一般的には幼少期、青年期、成人期、老年期といった斉一的な段階を強調する。一方、ライフコースは、歴史的・ コンテキストの中で個人の生涯にわたる経験や選択、役割に注目し、それらの多様なパターンを強調する。

ライフコースを捉える際の重要な概念が、年齢と である。年齢の視点は、個人の発達段階や人生の節目に焦点を当てる。各年齢段階には特有の役割期待や出来事があり、これが個人の行動や選択に影響を与える。 とは、一定の時期に出生や結婚など人生における重要な出来事を共通に体験した人々の集合を指す。

近年、ライフコースの が指摘されている。これは、伝統的な制度の相対化や価値観の多様化などに伴い、人々が自らの人生をコントロールする力が増大する過程と捉えられる。このような中で、多様なライフコースを捉えるための新たな分析枠組みの構築が求められている。

A	B	C	D
1. 社会的	ライフサイクル	コーホート	個人化
2. 社会的	ライフサイクル	社会階層	世俗化
3. 社会的	ライフスタイル	社会階層	個人化
4. 心理的	ライフサイクル	社会階層	個人化
5. 心理的	ライフスタイル	コーホート	世俗化

【No. 4】 「日本の将来推計人口(令和5年推計)」及び「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」(いずれも国立社会保障・人口問題研究所)に示されている今後の我が国の推計人口に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 全国の合計特殊出生率は、新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大以前からみられた低迷を反映し、長期的投影水準は、2070年には0.7を下回ると推計されている。一方、短期的な動きとしては、新型コロナウイルス感染収束後の景気回復予測などを受け、2030年までは合計特殊出生率が1.7を超えると推計されている。
2. 総人口は、令和2(2020)年国勢調査による約1億3,000万人が2070年には約6,500万人へと、2020年時点の5割程度になると推計されている。また、総人口に占める65歳以上人口の割合(高齢化率)は、2020年の28.6%から2070年には52.1%へと上昇することが推計されている。
3. 国際人口移動のうち、外国人の入国超過数についてみると、新型コロナウイルス感染期の水準下降の継続が予想され、2035年の年間の推計値の今回推計(令和5年推計)は、前回推計(平成29年推計)と比べて、2分の1を下回る水準となっている。
4. 都道府県別の2050年の将来推計人口は、東京都を除く全ての道府県で2020年を下回ると推計されている。2020年から2050年までの期間中で最も人口減少率が大きいと推計されている秋田県では、2020年と2050年を比較した人口減少率は40%を超えると推計されている。
5. 市区町村別の将来推計人口についてみると、2020年と比べて2050年の0～14歳の人口割合が低下する市区町村数は、高齢者人口の急減等によってその割合が上昇する市区町村もみられることから、全体の約60%にとどまることが示されている。ただし、0～14歳人口が減少する市区町村数は、全体の約50%に達すると推計されている。

【No. 5】 次は、エビデンスに基づく実践に関する記述であるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

「エビデンスに基づく実践」の始まりは、1990年代に医療領域で起こった「エビデンスに基づく医療」の運動といわれている。それは、医師個人の経験や勘のみによって医療行為をするのではなく、各疾患に対してどのような治療が効果をもつかといったエビデンス(科学的根拠)に基づいて医療を行おうとする考え方による運動である。このような考え方は、心理、教育、福祉、刑事司法といった領域にも影響を与えている。

ある介入を受けた人に何らかの変化が生じた場合、その変化が真に当該介入による効果といえるのかという問いに答えるため、介入と変化の因果関係を検討する方法が開発されている。

□ A □ は、統計学的に厳密性が高いと考えられる方法であり、研究参加者を介入を受ける群と介入を受けない群に無作為に振り分け、両群を比較する方法である。このとき、エビデンスの質を高めるには、研究参加者がどの群に振り分けられたのかを研究参加者及び研究実施者に対して秘匿する □ B □ の手続を用いるのが適切である。

実際には、□ A □ を実施するには様々な困難が伴う。そこで、一名の研究参加者を対象として行う単一事例実験という手法がある。一名の研究参加者について、一回だけの介入と効果の評価では説得力が弱いため、一度介入を止めて効果の評価を行い、その後再び介入を加えて、効果が再現されるかどうかを再評価する手法は、□ C □ と呼ばれる。

また、過去の統計的な分析の結果をさらに統計的方法を用いて統合する □ D □ の手法により、多数のエビデンスを統一的な観点から解釈することができる。社会政策の効果について系統的に文献調査を行い、それを実際の政策に反映させようとする動きは、2000年に発足した □ E □ にも表れており、社会科学分野(教育、福祉、刑事司法など)における □ D □ の結果がウェブサイト上で公開されている。

A	B	C	D	E
1. 無作為化比較試験	二重盲検法	ABC 分析	メタ分析	ヘッドスタート計画
2. 無作為化比較試験	二重盲検法	ABAB デザイン	メタ分析	キャンベル共同計画
3. 無作為化比較試験	隠匿情報検査	ABC 分析	混合研究法	ヘッドスタート計画
4. 症例対照研究	二重盲検法	ABC 分析	混合研究法	キャンベル共同計画
5. 症例対照研究	隠匿情報検査	ABAB デザイン	メタ分析	ヘッドスタート計画

Ⅱ部(No. 6～No. 35)

Ⅱ部は**選択問題**です。**選択A(心理系)**、**選択B(教育・福祉・社会系)**のどちらか一つを任意に**選択し、15題を解答**してください。

答案用紙の「**選択**」の欄には、「**選択A**」を選択した場合は「**a**」、「**選択B**」を選択した場合は「**b**」をマークしてください。**マークされた一つの「選択」以外の問題は採点されません**ので、注意してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

No. 6～No. 20 はⅡ部選択A(心理系)です。

選択A、Bのどちらか一つを任意に選択し、15題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 6】 脳に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 脳は神経系の一部である。人間の神経系は中枢神経系と末梢神経系とに分類される。中枢神経系とは延髄と脊髄のことを指し、この中枢神経系から出入りする神経系を末梢神経系という。末梢神経系はさらに体性神経系と自律神経系に分類される。情動や動機づけには体性神経系の働きが重要である。体性神経系は交感神経系と副交感神経系に分けられる。
2. 脳の断面を見ると、やや灰色がかかった部分と白い部分とに分かれている。灰色の部分^を灰白質、白い部分^を白質と呼び、白質は神経細胞の細胞体が多く集まった場所である。脳の奥深い部分に白質の層があり、その部分を特に大脳皮質と呼ぶ。様々な精神機能を実現する上で大脳皮質の働きが重要である。
3. 大脳皮質の細胞を染色して断面を拡大すると、人間の場合、どの部分の大脳皮質も約1,000層の構造を成していることが分かる。各層を構成している細胞の形や層の厚さなどは、部位によって異なる。この層構造の差異に着目し、大脳皮質の地図を作ったのがS. R. y. カハールである。層構造が類似した領域に番地を当てたこの地図は、カハールの脳地図と呼ばれている。
4. 人間の脳を外側から見ると多数の皺^{しわ}が認められる。この皺^{しわ}を溝^{こう}といい、溝と溝の間の脳表面を回と呼ぶ。溝ごとに名称があり、代表的なものとして中心溝と外側溝がある。中心溝の前の部分を前頭葉、中心溝の後ろの部分を頭頂葉、外側溝の下側を側頭葉、脳の最も後ろの部分を後頭葉という。
5. 大脳は左右の半球に分かれており、相互に線維連絡がある。反対側の半球に伸びた線維をシナプス間隙といい、その最大のもので脳梁である。大脳以外の脳は、間脳、小脳、脳幹という部分に分けられる。情動機能に深い関わりのある脳部位から成る機能的単位をデフォルトモードネットワーク(DMN)と呼ぶことがある。DMNは、帯状回、海馬、扁桃核、脳弓などを含む。

【No. 7】 ヒトの生理学的反応に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. レム睡眠は、急速な眼球運動を伴い、睡眠の後半、目覚める1時間前頃に一度現れ、睡眠中は夢を見ていることが多いのが特徴である。レム睡眠は徐波睡眠とも呼ばれ、脳波は睡眠段階1～4のうち、最も深い睡眠段階4と類似した高振幅の徐波が大部分を占める。
2. ヒトの概日リズム(circadian rhythm)は、地球の自転周期に対応した生得的な機能で、隔離実験などの恒常条件下でも自転周期への同期を保つ。脳の松果体で生成されるメラトニンが概日リズムを作り出すとされており、その分泌量は昼間に多くなり、夜間は分泌が抑制される。
3. 皮膚電気活動(electrodermal activity)は、精神性発汗を電氣的に捉えたものである。その測定法として、微弱な電流を流して皮膚の抵抗変化を調べる通電法と、精神性発汗の起こる部位と起こらない部位の電位差を捉える電位法がある。
4. 老視は、加齢に伴う水晶体の軟化や毛様体筋の弱化により眼の調節作用がうまく働かなくなった状態であり、手元の字に焦点を合わせづらくなるといった症状が生じる。近視の場合は、老視にはならないとされている。
5. バイオフィードバックとは、古典的条件づけの原理を用いることで、普段は知覚し得ない心理的・生理的反応を本人に提示し、自己調整を促進する手続である。バイオフィードバックによって制御できる反応は心拍や皮膚温度であり、脳波や筋電位活動は制御できないとされる。

【No. 8】 心理学の歴史に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 近代心理学の創始者とされる W. ヴントは、心理学の学問領域においてそれまで主であった実験心理学に、自己観察に基づく内観法を取り入れ、実験と哲学を融合させた心理学を確立させた。また、ヴントは、間接経験を報告するための方法として内観法を位置付け、感覚などの要素を統合する過程のことを観察反応と呼び、その過程の検討を重視した。
2. 米国における心理学の祖とされる W. ジェームズは、進化論を背景に意識の適応的側面に焦点を当てた構成主義心理学を発展させた。また、心理学で初めて自己について体系的に論じ、自己を「知る者」と「知られる者」の二つに分類した。特に洞察を深めた「知る者としての自己」には、物質的自己、社会的自己、精神的自己の三つの面があると定義した。
3. 行動主義を主導した J. B. ワトソンは、心理学の研究には、内的過程に加えて客観的科学の視点も取り入れることが必要だとし、意識と行動の両面を研究の対象とすべきであると主張した。また、ワトソンは、「アルバート」と呼ばれる乳児の実験から、行動実験によって誘発された不適応行動である実験神経症という現象を発見した。
4. 特性論によるパーソナリティ理論を確立した G. W. オルポートは、個人を類型的に捉えるのではなく、様々な特性の集まりとして考える立場をとった。また、オルポートは、個人に特有な個別特性だけでなく、多くの人に共通して見られる共通特性という概念を導入してパーソナリティを理解することが重要であるとした。
5. 認知心理学の台頭に伴い、認知療法を確立した A. T. ベックは、パーソナリティ障害の治療に対して独自の認知理論を提案した。この理論では、精神病理が促進される背景に不適切な認知システムの活性化を想定し、そのシステムとして表層レベルの認知である認知スキーマと、深層レベルの認知である自動思考の二つが仮定されている。

【No. 9】 次の記述のA～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

One technique for finding out what babies can see is called A. The baby is typically shown a card or TV screen on which a pattern appears. The pattern could appear on the left or right of where the baby is looking. (To get the baby looking at the correct spot to begin with normally involves flashing ducks or frogs or various toys to capture their interest.) An observer then monitors where the baby chooses to look — notice that this person is hidden behind the card and so does not influence where the baby looks, and also doesn't know where the pattern on the card is. Normally, babies find the B more interesting than the C of the card, and will look at the D. If they can do this reliably, this must mean that they can tell the difference between the blank card and the pattern — in other words, they must be able to see the pattern. By varying the width of the stripes on the card we can discover just how thin we can make the lines before the baby can no longer see them, and we have a measure of E.

	A	B	C	D	E
1.	preferential looking	pattern	blank part	observer	vection
2.	preferential looking	pattern	blank part	pattern	acuity
3.	preferential looking	blank part	pattern	observer	acuity
4.	visual search	pattern	blank part	pattern	vection
5.	visual search	blank part	pattern	observer	acuity

【No. 10】 次は、精神物理学(心理物理学)に関する記述であるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

感覚に関する経験則の一つであるウェーバーの法則は、 \boxed{A} と、基準となる刺激の強度との間に一定の関係があることを示したものである。例えば、300 g の粉末を手に乗せ、1 g ずつ粉末を増やしたところ、10 g 追加した時に初めて重さの違いを感じたとする。同一条件下で、最初の粉末の重さが 3,000 g だった場合、同じように重さの違いが初めて感じられるには、 \boxed{B} の粉末を追加する必要がある。この関係を式で表すと、

$$\boxed{C} = K$$

となる。この式において、S は基準となる刺激強度、 ΔS は \boxed{A} の大きさ、K は定数を表すものとする。定数Kの値が \boxed{D} ほど、刺激のわずかな変化に対して感度が高いことを意味する。定数Kは、感覚の \boxed{E} によって異なることが知られている。

	A	B	C	D	E
1. 弁別閾		100 g	$\Delta S / S$	小さい	モダリティ
2. 弁別閾		100 g	$\Delta S / S$	大きい	尺度
3. 弁別閾		310 g	$\Delta S + S$	大きい	モダリティ
4. 刺激閾		100 g	$\Delta S + S$	大きい	モダリティ
5. 刺激閾		310 g	$\Delta S / S$	小さい	尺度

【No. 11】 次の記述のA～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

In conditioning the organism learns to associate new stimuli with natural, biological responses such as salivation or fear. The organism does not learn something new but rather begins to perform in an existing behavior in the presence of a new signal. Operant conditioning, on the other hand, is *learning that occurs based on the consequences of* and can involve the learning of new actions. 《中略》

Psychologist Edward L. Thorndike (1874-1949) was the first scientist to systematically study operant conditioning. In his research Thorndike (1898) observed cats who had been placed in a “puzzle box” from which they tried to escape. At first the cats scratched, bit, and swatted haphazardly, without any idea of how to get out. But eventually, and accidentally, they pressed the lever that opened the door and exited to their prize, a scrap of fish. The next time the cat was constrained within the box it attempted fewer of the responses before carrying out the successful escape, and after several trials the cat learned to almost immediately make the correct response.

Observing these changes in the cats’ behavior led Thorndike to develop his law of effect, *the principle that responses that create a typically pleasant outcome in a particular situation are* *likely to occur again in a similar situation, whereas responses that produce a typically unpleasant outcome are* *likely to occur again in the situation* (Thorndike, 1911).

	A	B	C	D	E
1.	classical	<i>behavior</i>	effective	<i>less</i>	<i>more</i>
2.	classical	<i>behavior</i>	ineffective	<i>more</i>	<i>less</i>
3.	classical	<i>thinking</i>	effective	<i>more</i>	<i>less</i>
4.	instrumental	<i>behavior</i>	ineffective	<i>less</i>	<i>more</i>
5.	instrumental	<i>thinking</i>	effective	<i>more</i>	<i>less</i>

【No. 12】 次の記述のA～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

人の気分は、その日の天気にも少なからず影響される。N. シュワルツと G. L. クロア(1983)は、気分と判断との関係を検討するために、晴れて天気の良い日又は雨の降る天気の悪い日に生活満足度に関するインタビューの電話をかけた。A から予測できるように、晴れの日に電話を受けた回答者の方が、雨の日の回答者に比べ、生活により満足していると回答した。この条件では、実験者らは回答者に対して、その日の天気については触れず、何の示唆も与えなかった。別の条件で実験者らは、インタビューの最初に「今日のそちらの天気はどうか」と回答者に尋ね、その日の天気に注意を向けさせた。この条件においても、気分への天気の影響が変わらないのであれば、最初の条件と同様に A が生じると予測された。ところが、この条件では、雨の日と晴れの日における生活満足度の差は B 。

最初の条件における結果は、知識における C モデルをベースにして、感情をノードとして組み込む連合ネットワークモデルで説明できる。しかし、二つ目の条件における結果はこのモデルでは説明が難しい。両条件の結果から、実験者らは、人が何かを判断するときに、自分の感情を手がかりとして利用する D を提唱した。

	A	B	C	D
1. 気分一致効果		消失した	二重過程	選択的情報接触仮説
2. 気分一致効果		消失した	活性化拡散	感情情報機能説
3. 気分一致効果		逆転した	二重過程	感情情報機能説
4. 利用可能性ヒューリスティック		消失した	活性化拡散	選択的情報接触仮説
5. 利用可能性ヒューリスティック		逆転した	二重過程	感情情報機能説

【No. 13】 感情や情動に係る諸理論に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

ア. 情動のジェームズ＝ランゲ説は、刺激や状況によって生じる末梢活動の変化が情動経験の起源になることを主張する説である。この説が主張された後、情動における顔の役割を重視した S. S. トムキンスは、顔面筋肉運動の感覚フィードバックが、生理的反応のフィードバックと同じように情動経験を生じさせるとする、顔面フィードバック仮説を提唱した。

イ. J. P. フォーガスの感情混入モデルによれば、社会的判断には4種類の情報処理方略があり、特定の感情からの影響は、4種類の処理方略のうちどれが採用されるかによって異なるとされる。直接アクセス処理と動機充足処理は感情の混入が少ない方略であるのに対し、ヒューリスティック処理と実質的処理は感情の混入を大きく受ける方略である。

ウ. H. セリエは、多様なストレスによる生体の非特異的な防衛反応を発見し、汎適応症候群という概念を発表した。この汎適応症候群の考えに基づけば、ストレスによる生理的覚醒と課題成績とが逆U字型の関係になる。セリエによると、ストレスに対する生体の非特異的反応は、ストレスに対する認知的評価と、ストレスに対する対処行動により異なるという。

エ. J. J. グロスは、感情生起の過程をプロセスモデルとしてまとめた。この過程は、感情を喚起するような刺激に出くわし、その刺激に注意を向け、それを評価し、感情反応が出現するという経緯をたどる。さらにグロスは、このプロセスモデルに依拠して感情制御のモーダルモデルを提唱した。これは、感情生起の各段階に、準備、あたため、ひらめき、検証という四つの異なる感情制御を想定するものである。

1. ア、イ
2. ア、ウ
3. イ、ウ
4. イ、エ
5. ウ、エ

【No. 14】 知能理論及び知能検査に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 人間の知能指数が年々上昇する現象のことをアンカリング効果と呼ぶ。約 30 年間でおよそ 5～25 の知能指数の平均値の上昇が見られ、その傾向は文化的影響を受けにくい結晶性知能においてより顕著である。年月の経過に伴い、アンカリング効果が生じたり、検査問題が時代に合わなくなったりするため、知能検査は 10～15 年に一度、改訂される。
2. H. ガードナーは、知能の多因子説を唱え、七つの知能が互いに独立して発達し機能すると仮定した。ガードナーは、従来の知能検査によって測定されてきた言語や数、空間に関する知能や、表現・芸術に関する能力のほかに、理にかなった方法でものを扱ったり、ものに働き掛けたりするときに用いられる知能を実用的知能と定義し、七つの知能に含めた。
3. D. ウェクスラーが開発したウェクスラー式知能検査は、PASS 理論に準拠している。同検査は、知能指数が一般知能因子に、各指標得点が PASS 理論における広範的能力の 5 領域に対応するように作られている。他方、DN-CAS 認知評価システムは、A. S. カウフマンと N. L. カウフマンが提唱した知能を情報処理過程と捉える CHC 理論に準拠している。
4. ウェクスラー式知能検査は、適用年齢により、WPPSI、WISC、WAIS の 3 種類があり、いずれの検査も偏差知能指数(DIQ)を採用している。日本版 WISC-V では、全検査 IQ である FSIQ のほかに、言語理解指標、視空間指標、流動性推理指標、ワーキングメモリー指標、処理速度指標の五つの主要指標と付加的な認知能力の情報を示す五つの補助指標を評価する。
5. 知能偏差値(ISS)は、知能の発達程度を表す一つの指標であり、スタンフォード・ビネー式知能検査から導入された概念である。知能偏差値は、個人の知能水準を、同年齢集団の平均からの差によって示そうとするものであり、受検者と同年齢の者を母集団として、平均 100、標準偏差 15 の正規分布に従うように変換された知能検査の得点のことを指す。

【No. 15】 養育者と子どもについての実験や理論に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. ストレンジ・シチュエーション法で回避型に分類された子どもは、養育者との分離や再会場で何がしたいのかが読み取りづらく、矛盾した行動を見せるタイプである。回避型の子どもの養育者は、子どもがくっつきようとしたときに、その行動に応答するときもあれば応答しないときもあり、子どもは愛着行動を最小限に抑え込むことで、養育者との距離をある範囲にとどめておこうとする。
- B. 子どもは、愛着対象である養育者等との相互作用を通じて、その対象が特定の場面でどの程度応答してくれるのか、利用可能なのかに関する、自分なりの予見又は仮説である愛着の内的作業モデルを構築していく。J. ボウルビィによると、発達早期に構築されたこの内的作業モデルは、友人関係や恋愛関係など他の対人関係一般に適用され、個人のその後の人生における対人関係スタイルやパーソナリティを持続的に支える機能を果たす。
- C. 乳児は、生後2、3か月頃から養育者の目や身体の動きに合わせて、養育者と同じ対象に目を向けることができるようになる。生後半年が経つと、養育者と同じ対象を見るだけでなく、養育者が自分と同じように対象に注意を向けていることを理解している状態になり、お互いに対象についての心内状態を伝え合うこともある。これを共同注意と呼ぶ。共同注意が成立することによって、子どもと養育者の二項関係(二者関係)が形成される。
- D. 20世紀初頭、孤児院や乳児院といった施設に入った子どもは、死亡する割合が高く、また心身の発達に遅れが見られがちであった。J. ボウルビィは、その原因を栄養的問題や医学的管理にあると考え、マターナル・デプリベーションの名で研究した。その後、R. A. スピッツは、マターナル・デプリベーションの研究を発展させてホスピタリズムの概念を体系化した。

1. A
2. B
3. A、C
4. B、D
5. C、D

【No. 16】 ADHD(注意欠如多動症)に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. DSM-5-TR(精神疾患の診断・統計マニュアル)によれば、ADHD と診断される子どもの割合は、学童期において1～2%程度とされている。ただし、年齢とともに不注意の傾向は軽減されることが多く、成人期の有病率は学童期よりも低いことが指摘されている。なお、性差については、女兒よりも男児に多く見られるものの、大人ではほとんど差は見られないとされている。
2. DSM-5-TRによれば、ADHD とは、不注意や多動・衝動性の症状のいずれかまたは両方が6か月以上持続しており、こうした症状が7歳以前から、2つ以上の異なる状況下で継続して現れる障害をいう。DSM-5以降、ADHDとASD(自閉スペクトラム症)の併存が認められなくなった。
3. L. ウィングは、定型発達の者には、様々な情報を意味のある一つの全体に統合して理解しようとする傾向が備わっているとし、これを中枢性統合(central coherence)と呼んだ。ADHDの主な特性である「木を見て森を見ない」といった認知様式は、中枢性統合の弱さとして説明することができる。
4. DSM-5-TRの神経発達症群においては、それぞれに特化したアセスメントツールを用いることが多い。例えば、新版K式発達検査とConners3は、ADHDに特化した検査である。Conners3は、6～18歳を対象とするスクリーニング検査で、学校版と家庭版の2種類から成り、不注意と多動・衝動性の領域の18項目を交互に回答する。
5. ADHDの治療・支援では、心理療法や環境調整のほかに、薬物療法も考慮される。我が国では、メチルフェニデート徐放剤を含む複数の薬剤が承認されている。なお、薬物療法による症状の改善は、心理社会的な治療・支援へのアドヒアランスを高めるものであり、ADHDの診断・治療ガイドラインでは薬物療法のための治療は想定されていない。

【No. 17】 次は、因子分析に関する記述であるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

因子分析とは、複数の観測変数間の 関係を、それらより少数の因子(潜在変数ともいう)を仮定することで説明しようとする、多変量解析法の一つである。例えば、 p 個の観測変数(x)に対して、一つの因子のみを考えたとき、それぞれの観測変数は、

$$x_j = \beta_j f + \varepsilon_j \quad (j = 1, 2, \dots, p) \quad \dots\dots(1)$$

と表現される。このとき、因子 f にかかる係数 β_j は、それぞれの観測変数が当該因子をどの程度反映しているかを示し、 と呼ばれる。また、 ε_j は、因子 f によって説明されない変数 x_j に固有の成分である。 の 2 乗和によって観測変数における共通性が求められ、一般的に 1 から共通性を引いた値が となる。また、上記の(1)式が妥当なモデル、すなわち p 個の観測変数が 1 因子モデルによって説明されるということは、 ε_j 間が ことを仮定することと同義となる。

因子分析では、二つ以上の因子を仮定することも多い。このときには、単純構造になるように因子軸の回転を行うことで、因子の解釈が容易になるようにする。因子軸の回転は、因子どうしを互いに無相関とする直交回転と、因子間の相関を許容する斜交回転に大別される。因子が直交するとき、 は因子と観測変数の相関係数である に一致する。

	A	B	C	D	E
1.	相関	因子負荷	独自性	相関しない	因子構造
2.	相関	因子負荷	独自性	相関する	因子寄与
3.	相関	適合度指標	固有値	相関しない	因子寄与
4.	因果	因子負荷	固有値	相関する	因子構造
5.	因果	適合度指標	独自性	相関しない	因子寄与

【No. 18】 次は、正規分布に従う変数の線形変換に関する記述であるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

平均 μ_x 、分散 σ_x^2 の正規分布 $N(\mu_x, \sigma_x^2)$ に従う変数 x に、定数 c を乗じて、さらに定数 d を加えた新しい変数 $x' = cx + d$ を作成したとする。この新しい変数 x' は、正規分布に A。この変数 x' の分布の平均は $c\mu_x + d$ 、分散は B と記述できる。

ある変数の平均と標準偏差を特定の値にそろえる操作を C と呼ぶ。平均 \bar{x} 、標準偏差 s_x の学力テストの得点 X を、平均が 0、標準偏差が 1 になるように C するためには、観測された学力テストの得点 X に D を乗じて、さらに E を減じればよい。

A	B	C	D	E
1. 従う	$c^2\sigma_x^2$	標準化	$\frac{1}{s_x}$	$\frac{\bar{x}}{s_x}$
2. 従う	$c^2\sigma_x^2$	標準化	s_x	\bar{x}
3. 従わない	$c^2\sigma_x^2$	外挿	s_x	\bar{x}
4. 従わない	$c\sigma_x^2$	標準化	$\frac{1}{s_x}$	$\frac{\bar{x}}{s_x}$
5. 従わない	$c\sigma_x^2$	外挿	$\frac{1}{s_x}$	\bar{x}

【No. 19】 次は、項目反応理論に関する記述であるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

項目反応理論では、テストに含まれる個々の項目に対する回答者の反応を、項目の特徴を表す項目母数と、回答者の能力を表す A の関数で説明する。 A はしばしば θ と表記され、 θ がある値をとる人の、ある項目に対する正答確率を $P(\theta)$ と表記し、これをモデル化する。

項目反応理論のモデルの中でも代表的な2母数ロジスティックモデルでは、モデルに含まれる項目母数として B と C の二つが挙げられる。 B とは、正答確率 $P(\theta) = 0.5$ となるような A の値を指し、 B が大きい項目では、 A の高い回答者でなければ正答確率は0.5に到達しないことになる。一方、 C とは、 A の差が項目に対する正答確率にどの程度の違いをもたらすかを表す。なお、この2母数ロジスティックモデルのような項目反応理論の一般的なモデルでは、「 A を一定としたときの各項目に対する回答者の反応は独立である」とする仮定を置くが、これを D と呼ぶ。

項目反応理論は、テストの実際的な問題を解決するのに有用である。例えば、TOEFLのような外国語能力試験では、複数の時期に実施される問題項目の異なるテストの測定結果を、共通尺度上の得点で表示できるようにしている。このような操作を E と呼ぶ。

	A	B	C	D	E
1. 潜在特性		固定効果	変量効果	局所独立の仮定	マッチング
2. 潜在特性		困難度	識別力	球面性の仮定	マッチング
3. 潜在特性		困難度	識別力	局所独立の仮定	等化
4. 真値		固定効果	変量効果	球面性の仮定	等化
5. 真値		固定効果	識別力	局所独立の仮定	マッチング

【No. 20】 次の記述のA～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

□ A □ とは、帰無仮説が偽であるときに正しく帰無仮説を棄却する確率である。言い換えると、差があるときに差があると正しく判断できる確率である。

□ A □ の分析では、□ A □、□ B □、有意水準、□ C □の四つのパラメータが互いに影響し合う。つまり、この四つのうちの一つが変化すると、結果として必ず他の三つも変化することになる。例えば、研究対象の□ B □が小さく、□ C □が小さく、有意水準が□ D □ければ、結果として□ A □は低くなる。□ B □が小さければ検出するのは難しく、□ C □が小さければノイズが大きくなる(個人差の影響が強くなる)傾向がある。一方、有意水準が□ D □いと本当は差があっても有意でないという判断をする確率が増える。

	A	B	C	D
1. 有意確率(p 値)		効果量	サンプルサイズ	高
2. 有意確率(p 値)		効果量	臨界値	低
3. 有意確率(p 値)		自由度	サンプルサイズ	高
4. 検定力		自由度	臨界値	低
5. 検定力		効果量	サンプルサイズ	低

No. 21～No. 35 はⅡ部**選択B(教育・福祉・社会系)**です。

選択A、Bのどちらか一つを任意に選択し、15題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 21】 19世紀以降の教育思想に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. E. ケイは、『児童の世紀』の著者であり、女性の地位向上と子供の権利の尊重を主張した。ケイは、20世紀は児童の世紀であると宣言し、「子供が権利をもつとき、道徳が完成する」と述べ、社会改革の起点としての子供の教育の重要性を説いた。
2. J. デューイは、『民主主義と教育』の著者であり、知識中心主義や本質主義の教育を提唱した。デューイは、子供一人一人の個性や成長が重要であると主張し、そのために教師が子供一人一人に対して一方向的に知識や技能を教え込む必要性を説いた。
3. H. アーレントは、『教育の過程』の著者であり、子供の認知発達を4段階で捉え、子供の思考の特質は自己中心性にあると説いた。アーレントは、子供が脱中心化し社会参加の能力を身に付けることが必要であると主張し、地域福祉センターの役割をもつ「ハル・ハウス」を創設した。
4. P. アリエスは、『<子供>の誕生』の著者であり、学校は監獄や病院と並ぶ近代的な権力装置の一つであると指摘した。アリエスは、教育においては子供一人一人の発達に合わせることが重要であるとし、子供の感受性を尊重することを理念とする「自由ヴァルドルフ学校」を創設した。
5. I. イリイチは、『ハマータウンの野郎ども』の著者であり、学校を学校だけの論理で完結させるのではなく、商品的価値の享受など社会における経済システムと結び付ける必要性を主張した。イリイチの主張は、学校の機能を社会へ拡大する「新教育運動」と呼ばれている。

【No. 22】 我が国の学校体系や学校制度に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 大正期には、富裕層が通う小学校と一般民衆が通う小学校に分かれる複線型学校体系が形成されており、一般民衆は義務教育終了後に進学できる学校が限られていた。制度上、帝国大学まで進学することが認められていたのは華族と皇族のみであり、人口の大半を占めていた平民は職業訓練を行う中等教育機関への進学のみが認められていた。
2. 第二次世界大戦後の占領期には、分岐型学校体系へと制度を変更し、制度上全ての児童が小学校には通学することができるようになったが、その後の進路は将来のキャリアに適合した学校を選択する必要があった。主に職業教育と普通教育に分けられ、職業教育の学校に進んだ場合は大学入学資格認定試験を受けなければ大学受験が認められなかった。
3. 第二次世界大戦後の学制改革で学校制度の転換が図られ、国民学校は現在の小学校となり、旧制中学校は現在の中学校となった。一方で、現在の高等学校の母体となる学校は戦前には存在しなかったため、同改革により全国の都道府県や市町村において高等学校が新規に設置された。
4. 現在は、小学校・中学校・高等学校・大学が接続されている「6・3・3・4制」の単線型学校体系が基本とされている。単線型学校体系は、社会階層にかかわらず、初等教育修了者に中等教育・高等教育への進学機会が広く開かれた、教育の機会均等の理念に基づくシステムとして想定されている。
5. 明治期の教員養成は、初等・中等教育機関の教員を養成する尋常師範学校と高等教育機関の教員を養成する高等師範学校によって担われていた。児童生徒への修身・道徳教育の徹底を重視していた明治政府は、これらを全て政府直轄の機関として設置し国費で運営するとともに、授業料を無償として質の高い教員の確保を目指していた。

【No. 23】 我が国の義務教育制度に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 公立小中学校については、文部科学省にその設置義務があり市町村に設置を委託している一方で、管理運営は都道府県が行っているため、その教職員の給与は全額都道府県が負担することとなっている。ただし、公立小中学校に勤務する教員の採用や異動等の人事権は市町村が有するため、教員の異動は原則として同一市町村内に限られている。
2. 第二次世界大戦直後の教育改革により、公立の義務教育段階においては、一定の年齢に達した児童生徒を進級・進学させる課程主義を原則としつつ、教育委員会が課程の修了を認めない場合は進級できないとする原級留置の制度が設けられた。しかし、全ての児童生徒に確かな学力を保障するためとして、平成 18 年の教育基本法改正で同制度は廃止された。
3. 義務教育課程については、学校教育法において就学義務が規定されており、子供は学校教育法第 1 条で定める学校(一条校)への通学が義務付けられている。就学義務が猶予又は免除されるのは経済的な理由と病弱の場合に限られるため、例えば外国籍の学齢児童生徒がインターナショナルスクールに通う場合は、就学義務の不履行とみなされる。
4. 日本国憲法において、「義務教育は、これを無償とする。」と定められており、公立小中学校の授業料、学校給食費、教科書及び補助教材の購入費用は全て国が負担することとされている。これに対して、私立学校はこれら全てについて自己負担とされているため、義務教育段階であっても家庭からの支出が求められている。
5. 平成 18 年の教育基本法改正では義務教育の目的が新たに規定され、その後、義務教育 9 年間を通じた系統性・連続性等を考慮した制度として、学校教育法改正により小中一貫教育を行う義務教育学校が創設された。義務教育学校では、5 年生から 7 年生を一つの学年段階の区切りとして小学校段階の児童に対しても教科担任制を導入するなどの運用もみられる。

【No. 24】 我が国における青少年をめぐる諸課題に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 文部科学省の調査^{*1}によれば、児童生徒 1,000 人当たりのいじめの認知件数について、その推移をみると、平成 25 年度から令和 5 年度まで減少傾向が続いている。また、この認知件数を学校種別でみると、令和 5 年度においては、高等学校、中学校、小学校の順に多くなっている。
2. 文部科学省の調査において、「長期欠席者」とは、年度間に 90 日以上登校しなかった児童生徒をいうと定義されている。そのうち「不登校児童生徒」とは、出席停止を含め、何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にある者をいい、小中学校におけるその数は令和 5 年度で調査開始以来最少となっている。
3. 文部科学省の調査によれば、高等学校中途退学者数は、平成 25 年度から令和 5 年度まで増加し続けている。これを事由別の構成比でみると、令和 5 年度では「問題行動等」が最も高く全体の 5 割を超えており、「学業不振」、「家庭の事情」がこれに続いている。
4. 厚生労働省の「令和 5 年(2023)人口動態統計(確定数)」によれば、令和 5 年における年齢(5 歳階級)別にみた死因は、15～19 歳で「自殺」が第 1 位である。また、厚生労働省・警察庁の発表^{*2}によれば、令和 5 年の中高生の自殺の原因・動機についてみると、中高生ともに「学校問題」が「家庭問題」や「健康問題」より多くなっている。
5. 法務省の『令和 5 年版 犯罪白書』によれば、大麻取締法違反の年齢層別の検挙人員の推移(最近 10 年間)についてみると、20 歳未満で減少傾向が続いている。一方で、覚醒剤取締法違反の年齢層別の検挙人員の推移(最近 20 年間)についてみると、20 歳未満で増加傾向が続き、令和 4 年で過去最多となっている。

*1 「令和 5 年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」(令和 6 年 10 月)

*2 「令和 5 年中における自殺の状況」(令和 6 年 3 月)

【No. 25】 次は、『平成 29 年版 厚生労働白書』の一部を抜粋(一部省略)したものであるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

憲法第 25 条で使われている「社会保障」という言葉は、明確な定義がされていたものではなく、具体的に定義が示されたのは、内閣総理大臣の諮問機関として 1949(昭和 24)年に設置された社会保障制度審議会による 1950(昭和 25)年の「社会保障制度に関する勧告」(以下「1950 年勧告」という。)であった。

「1950 年勧告」の中で、社会保障制度とは、「疾病、負傷、分娩、廃疾、死亡、老齢、失業、多子その他困窮の原因に対し、保険的方法又は直接公の負担において経済保障の途を講じ、生活困窮に陥った者に対しては、国家扶助によって最低限度の生活を保障するとともに、公衆衛生及び の向上を図り、もって全ての国民が の成員たるに値する生活を営むことができるようにすること」と定義した上で、このような社会保障の責任は にあることを規定している。

《中 略》

社会保障制度が質量ともに様々な充実・拡大が図られたことにより、社会保障制度の目的は、「1950 年勧告」当時の貧困からの救済(救貧)や貧困に陥ることの予防(防貧)といった「生活の最低限度の保障」から、近年では「救貧」、「防貧」を超え、「広く国民に安定した生活を保障するもの」へと変わってきた。

《中 略》

社会保障制度審議会では、1995(平成 7)年に「社会保障体制の再構築に関する勧告—安心して暮らせる 21 世紀の社会を目指して」を取りまとめた。この中で社会保障制度の新しい基本的な理念として、「広く国民に健やかで安心できる生活を保障すること」とし、国民の が社会保障制度を支える基盤であるとしている。

A	B	C	D
1. 社会福祉	共生的社会	国家	勤勉と節約
2. 社会福祉	文化的社会	国家	自立と社会連帯の考え
3. 社会福祉	共生的社会	国民	自立と社会連帯の考え
4. 労働環境	共生的社会	国家	勤勉と節約
5. 労働環境	文化的社会	国民	自立と社会連帯の考え

【No. 26】 地方公共団体における社会福祉・公衆衛生の機関に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 福祉事務所は社会福祉法に規定され、市町村が条例に定めるところによりこれを設置しなければならない。また、福祉事務所に置かれる所員のうち指導監督を行う所員については、社会福祉士又は精神保健福祉士でなければならないことが規定されている。
2. 保健所は地域保健法に規定され、都道府県、指定都市、中核市、その他の政令で定める市又は特別区がこれを設置する。また、保健所が行う事業として、栄養の改善及び食品衛生に関する事項、母性及び乳幼児並びに老人の保健に関する事項などが規定されている。
3. 児童相談所は児童福祉法に規定され、都道府県、指定都市、中核市、特例市、特別区がこれを設置しなければならない。また、児童相談所に置かれる所員のうち相談及び調査をつかさどる所員の中には、児童福祉司が1人以上含まなければならないことが規定されている。
4. 女性相談支援センターは困難な問題を抱える女性への支援に関する法律に規定され、都道府県、市及び特別区がこれを設置しなければならない。また、女性相談支援センターには困難な問題を抱える女性を保護するための母子生活支援施設を設けることが義務付けられている。
5. 精神保健福祉センターは精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に規定され、市町村がこれを設置する。また、精神保健福祉センターでは、精神保健及び精神障害者の福祉に関する相談及び援助のうち基本的なものを実施する。

【No. 27】 我が国の社会保障制度の歴史に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 明治 7 (1874) 年、初めての救貧法制として救護法が制定された。昭和 4 (1929) 年には救護法は旧生活保護法に改正され、要保護者に保護請求権を認めるとともに無差別平等の原理などが掲げられた。昭和 21 (1946) 年には第二次世界大戦後の戦争被災者などの生活困窮者や戦災孤児、戦傷病者のニーズに対応するため新たな生活保護法が制定され、児童福祉や身体障害者福祉を包摂した総合的な法律として整備された。
2. 大正 11 (1922) 年、我が国で初めての社会保険立法として、鉱工業労働者を被保険者とする労働者年金保険法が制定された。昭和 13 (1938) 年には、国民年金法が制定され、公的年金保険の被保険者が自営業者や農民などにも拡大された。翌昭和 14 (1939) 年には、厚生年金保険法が制定され、販売業や金融保険業の従業員も被保険者とされ、国民皆年金がほぼ達成された。
3. 昭和 16 (1941) 年、被用者を被保険者とする健康保険法が制定され、昭和 19 (1944) 年には被用者以外の者を被保険者とする国民健康保険法が制定された。第二次世界大戦後、経済が回復する中で、昭和 36 (1961) 年、老人保健法が制定され、老人医療費が無料化された。その後、オイルショックが発生し、低成長の時代になり財政再建が大きな課題となる中で、昭和 57 (1982) 年、高齢者医療確保法^{*1}が制定され、老人患者に対する一部負担金を再び導入するなどの対応がとられた。
4. 昭和 46 (1971) 年、児童手当法が制定され、一定の年齢の子をもつ世帯に児童手当が支払われることとなった。当初の児童手当は、第 1 子以降の子供について、満 18 歳までの期間を対象に支給するものであった。その後、障害児を監護する父母などに対し支給する特別児童扶養手当や父又は母と生計を同じくしていない児童について支給する児童扶養手当も児童手当法に規定されることとなった。
5. 平成 24 (2012) 年、社会保障制度改革推進法が公布・施行され、平成 25 (2013) 年、同法に基づく法制上の措置についての閣議決定が行われ、同年末、社会保障改革プログラム法^{*2}が公布・施行された。同法では、少子化対策、医療制度、介護保険制度、公的年金制度についての検討項目を挙げ、社会保障制度改革推進会議を設置することとした。同法を受け、平成 26 (2014) 年には、地域包括ケアシステムの構築を掲げる医療介護総合確保推進法^{*3}が公布された。

* 1 高齢者の医療の確保に関する法律

* 2 持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革の推進に関する法律

* 3 地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律

【No. 28】 次は、障害の社会モデルについての記述を抜粋(一部省略)したものであるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

Disability was now understood not as an individual problem but in terms of the and oppression that people with impairments faced as a result of society's organization. Factors such as building construction, inaccessible public transport systems, and the attitudes of employers and the non-disabled population effectively '' people with a range of impairments.

《中 略》

The social model has been enormously influential in shaping the way that we think about disability today. It has gained global influence and is described as 'the big idea' of the British disability movement. In focusing on the removal of to full participation, the social model redefines disability as , a move that many disabled people found liberating.

A	B	C	D
1. poverty	discriminatory	enable	the result of oppression
2. poverty	fair	enable	the result of oppression
3. poverty	discriminatory	disable	lacking part of the body
4. social barriers	discriminatory	disable	the result of oppression
5. social barriers	fair	disable	lacking part of the body

【No. 29】 初期の社会学の理論に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

ア. A. スミスは、社会の規則性の基礎を「模倣」という現象に求めた。社会現象は個人の間の心的相互作用によって起こると考え、少数者の創造的な発明が模倣・反復され、規則性を与えられることで社会が成立するとした。また、模倣によって個人の発明や創造が伝播し、新たな発明や創造が生まれることを「オートポイエーシス」と表現した。

イ. サン＝シモンは、C. ダーウィンの生物進化論に基づいた社会進化論を展開した。ダーウィンの「自然選択」と呼んだものを「最適者生存」と言い換え、環境への適応の仕方の違いによって、社会は産業型社会と軍事型社会に分類されるとし、産業型社会から軍事型社会へ進化していくと主張した。

ウ. A. コントは、「三段階の法則(三状態の法則)」を唱え、人間の精神は「神学的→形而上学的→実証的」の三段階を経て発達するとした。そして、六つの基礎科学(数学、天文学、物理学、化学、生物学、社会学)のうち、社会学は実証的段階の最上位に位置するとした。

エ. G. タルドは、『ディスタンクシオン』において、人が人に同感するのは、人類の普遍的な原理であり、その原理から社会規範が成立するとした。そして、自己認識が可能になるのは、人間が社会の中に存在しているからであり、社会の中にあることは、自分を知る「鏡」を与えられることだと述べ、「鏡に映った自我」を説いた。

1. ア
2. ウ
3. ア、イ
4. イ、エ
5. ウ、エ

【No. 30】 コミュニティや社会集団についての学説に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. R. M. マッキーヴァーは『コミュニティ』を著し、コミュニティを共同関心に基づいて成立する共同生活の領域として規定し、地理的な境界で区切られた精神的な統一体のことであるとした。また、アソシエーションは特定の目的や分立関心を共有する結合の形式であり、コミュニティを基盤として成立するとし、家族を原則としてコミュニティではなくアソシエーションに分類した。
2. F. テンニースは『社会分業論』を著し、社会を社会たらしめるには何らかの凝集性が必要であると考え、社会の原形質として類似した集合体の反復によって成立する「環節社会」を定義し、その連帯の型を「有機的連帯」と名付けた。一方、近代社会への移行に伴う分業の進展により多様性に基づいた社会的紐帯によって凝集性が確保される社会が生まれるとし、分業による連帯を「機械的連帯」と名付けた。
3. 高田保馬は『社会学原理』を著し、社会の本質は人間の結合そのものであり、国家や家族など、地縁や血縁に基づく集団を「第一次集団」と名付け、第一次集団から派生した、類似や共通の利益に基づく集団を「第二次集団」とした。第二次集団は宗教や政治的立場を同じくする宗教集団や政党のような同類社会と、株式会社や慈善団体のような一定目的のための目的社会に分けられるとした。
4. B. ウェルマンは『ストリート・コーナー・ソサエティ』を著し、地域コミュニティを出発点とする従来のコミュニティ研究を踏襲し、第一次的紐帯の構造を直接的に探究しようとした。その中で、都市化・産業化の進展した現代社会では、コミュニティにおいて第一次的紐帯は解体された一方、地域を越えた分散的なネットワークを形成していると主張した。
5. E. フッサールは『フォークウェイズ』を著し、人間は環境の中で生存競争をしており、最適者が成功すると捉えた。最適の手段を選択して集団の慣習になったものを「モーレス」、これが信念・規範・倫理となったものを「フォークウェイズ」と呼び、モーレスの相違によって「内集団」と「外集団」の区分が生じ、自民族中心主義が発生することを指摘した。

【No. 31】 相互行為や相互作用についての学説に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. E. ゴフマンは、相互行為に含まれている演技という側面に注目し、観察者(オーディエンス)の視点が演技者(パフォーマー)の行為を規定するとして、演技を成功させようとする工夫について様々に論じた。また、演技を積極的な行為に限定せず、例えば、演技的行為として、居合わせた人々が互いに露骨な関心を向けないように配慮する「儀礼的無関心」を示した。
2. S. フロイトは、人々が具体的な相互行為の中で役割を相互に取得することによって社会が成立すると主張した。人々は他者と関係しているときに何らかの「役割」を期待されており、その期待を内面化することで「一般化された他者」が形成されるとした。そして、こうした社会的な役割期待を内面化した自我を「主我(I)」、それに基づいて実際に決断し行為する自我を「客我(me)」と呼んだ。
3. H. ブルーマーは、多くの諸個人が相互作用に入るとき、そこに社会は存在するとして、社会化の過程を形式と内容に分け、形式こそが社会学の固有の対象だとする形式社会学を提唱した。また、社会は観察者を必要とする統一体だと述べ、人間が他者と同じように感じるということ、同感することができるということを「社会化のアプリオリ」として説明した。
4. G. ジンメルは、シンボリック相互作用論の理論化を行い、人々がシンボルを介して互いの振る舞いを解釈する相互行為過程を重視した。特に、社会集団に共有されている共通価値に着目し、人々が共通価値を内面化し、それを考慮して相互作用を行っているという「アクターネットワーク理論」を唱えた。
5. C. H. クーリーは、エスノメソドロジーの創始者であり、人間が行う行為は本質的に他者にとって理解不可能であるとし、それにもかかわらずコミュニケーションという相互行為が成立するのは、コミュニケーション・システムが成立するからであると説明した。そして、これを「人間はコミュニケーションしない、コミュニケーションだけがコミュニケーションする」と表現した。

【No. 32】 群集(衆)や大衆に関する学説についての記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

ア. G. ル・ボン は、『群集(衆)心理』の中で、個人は群集の中にいると、個性が消滅して同質化し、情緒性、被暗示性、無責任性、極端性などの特徴をもつ群集心理に容易に感染するようになると論じた。そして、群集について、扇動され合理的判断を失いやすい存在であるとした。

イ. J. オルテガ・イ・ガセット は、『君主論』の中で、20世紀初頭のヨーロッパについて、少数のエリートによる大衆の支配が社会の不均衡をもたらしたと指摘した。そして、一定の教養を備えるに至った「大衆人」が、社会の平均人としてエリートに代わり指導的地位に上がることで、社会の均衡を目指すべきであると説いた。

ウ. J. F. リオタール は、『脱工業社会の到来』の中で、史的唯物論に基づき、現代社会は近代社会と連続性・一貫性を保った脱工業社会であると論じた。また、このような社会を、生産・消費の対象が有形無形を問わない最も高次の段階にあるとして、「高度大衆消費社会」とも表現した。

エ. W. コーンハウザー は、『大衆社会の政治』の中で、「エリートへの接近可能性」と「非エリートの操縦可能性」を基準として四つの社会類型を析出した。このうち、エリートが非エリートの影響を被りやすく、非エリートがエリートに操縦されやすい社会を「大衆社会」とした。

1. ア、イ
2. ア、ウ
3. ア、エ
4. イ、ウ
5. ウ、エ

【No. 33】 次は、サンプリング調査に関する記述であるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

サンプリング調査とは、対象全体の中から一部を取り出して行う調査をいう。一般的にこの対象全体を母集団と呼び、実際の調査対象を標本と呼ぶ。そして、母集団の中から標本を選ぶことをサンプリングという。母集団と標本の統計量の差を **A** と呼び、サンプリングの際はこの値がなるべく小さくすることが求められる。サンプリング調査を行う目的は、対象全体を直接調査することなく、その特性や傾向を推測することにある。

サンプリングには **B** と無作為抽出法がある。**B** とは、母集団の中から調査者が意図的にその集団をより良く代表すると思われる標本を抽出する方法である。それに対して、無作為抽出法は、調査者の主観を排して、客観的な基準から標本を抽出する方法である。

無作為抽出法には、まず最も原型的な単純無作為抽出法が挙げられる。これは、全てのケースが等しい **C** で標本に選ばれるように抽出する方法である。この方法は、最も精度が高い一方で、母集団のリストがないと実施できない、作業量が膨大になるといったデメリットがある。そのため、実際の調査では、別の抽出法が用いられることが多い。

実際の調査で用いられる無作為抽出法には、対象全体を一定の順序に並べ、一定間隔でサンプルを抽出する **D**、サンプリングを複数の段階に分けて行う多段抽出法、対象全体を異なる層に分け、それぞれの層から無作為にサンプルを抽出する層化抽出法などがあり、それぞれにメリットとデメリットがある。

サンプリングの際には、サンプルの **E** を確保することが重要である。なぜなら、偏った標本に対して調査を行ったのでは、母集団を正確に反映した結果を期待することはできないからである。サンプリングを行う際は、調査の目的やコストの制約を踏まえて適切な抽出法を選択するとともに、偏りの少ない抽出作業をする必要がある。

	A	B	C	D	E
1. 標本誤差	集落抽出法	回収率	割り当て法	代表性	
2. 標本誤差	有意抽出法	確率	系統抽出法	代表性	
3. 標本誤差	有意抽出法	回収率	系統抽出法	匿名性	
4. 測定誤差	集落抽出法	回収率	割り当て法	代表性	
5. 測定誤差	有意抽出法	確率	割り当て法	匿名性	

【No. 34】 次は、二つの変数の関連を分析する統計手順についての記述であるが、ア～エに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

以下の表は、5名の小学生A～Eに対して、英単語のテスト(10点満点)を実施し、各人における実施前一週間のテスト勉強の時間と得点を調査した結果を示したものである。この英単語のテストについて、一週間の勉強時間と得点との関連を分析したい。

表

	A	B	C	D	E	平均値
勉強時間	8	7	4	5	6	6
得点	2	6	10	4	3	5

二つの変数の関連の指標である を求める一般的な手順は次のとおりである。

- ① 各ケースの二つの変数について、それぞれの平均値からの偏差を求める。
- ② 各ケースの二つの偏差の積の総和を求め、これをケース数で除し、共分散を得る。
- ③ 二つの変数それぞれの標準偏差を求める。
- ④ 共分散を、二つの変数の標準偏差の積で除す。

この英単語のテストについて当てはめると、まず、各人の勉強時間についてその平均値からの偏差を計算し、各人のテストの得点についてもその平均値からの偏差を計算する(①)。次に、各人において、①で得た勉強時間の偏差と得点の偏差の積を求め、その総和を人数で除す(②)。また、勉強時間の標準偏差*とテストの得点の標準偏差*をそれぞれ計算する(③)。最後に、②で得られた共分散の値を、③で得た二つの標準偏差の積で除すと(④)、A～Eの5名におけるこの英単語のテストの勉強時間と得点の が得られ、その値は となる。

は一般に -1 から の範囲に収まるが、例えば、同じ小学生A～Eに対して漢字のテストを実施し、同様の手順で一週間の勉強時間と得点の を計算すると、 -0.25 となったとき、英単語のテストの場合に比べ、漢字のテストの場合は、A～Eの5名における勉強時間と得点との関連が ことが分かる。

* 5名の小学生A～Eを母集団と考えたときの標準偏差

	ア	イ	ウ	エ
1. 相関係数		-0.7	1	弱い
2. 相関係数		-0.7	0	強い
3. 相関係数		-0.5	1	強い
4. 分散		-0.5	0	弱い
5. 分散		-0.35	1	強い

【No. 35】 質的調査研究に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. 質的調査研究におけるフィールドワークとは、調査対象地域について、過去に行われた様々な調査の報告記録、例えば郷土誌などの文献や、地域の公的歴史的な記録資料などの文字記録を調べる文献調査である。調査地や研究対象の選定に当たっては、恣意性を排するために対象を無作為抽出しなくてはならないとされている。
- B. アクション・リサーチとは、調査者が対象集団と共同して、具体的な問題を解決したり、状況を改善したりすることを目的に行動を起こし、そのプロセスを通して実践的な成果を目指す調査方法である。調査から得られた知見だけではなく、リサーチの過程そのものも重視するという特徴がある。
- C. ライフヒストリー研究とは、調査対象となる個人又は集団の生活や経験を社会的背景や事象と結び付けながら分析し、その人生全体や人生の一時期を再構築し、社会的文脈に位置付けながら描こうとするものである。我が国における先駆的なライフヒストリー研究の一つに、戦前・戦後の歴史の変化をある一人の女性の主観的な世界から描いた、中野卓編著『口述の生活史』がある。
- D. 質的調査研究は、社会調査としてその実証性及び客観性を担保する必要があることから、公表に当たっては人名・地名・団体名等を実名にしなくてはならないことになっている。また、調査倫理の観点からその公表内容について調査対象者に知らせる必要があるが、公表前に知られると調査目的に反する修正や削除を求められる可能性があるため、公表後に知らせることになっている。

1. A、B
2. A、C
3. B、C
4. B、D
5. C、D

Ⅲ部(No. 36～No. 105)

Ⅲ部は**選択問題**です。科目1～科目14のうちの任意の4科目(1科目各5題)を選択し、合計**20題を解答**してください。

この問題集の科目別構成の詳細は、この問題集の裏表紙に掲載されていますので、よく読んでください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

No. 36～No. 40 はⅢ部**科目1 . 認知心理学**です。

科目1 ～科目14 のうちの任意の4科目を選択し、合計20題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

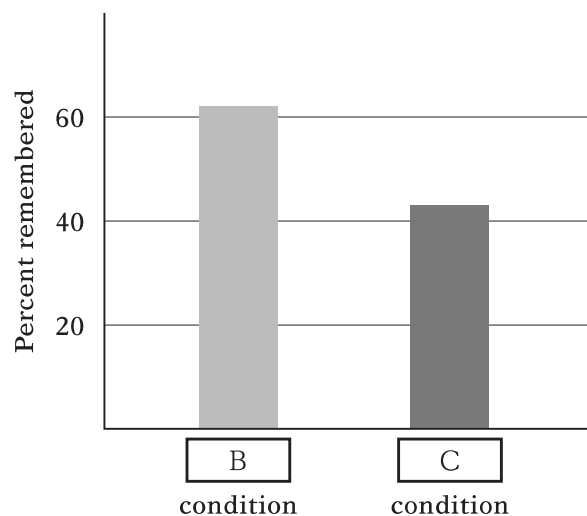
【No. 36】 次の記述のA～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

なお、解答に使用する語句は文脈に応じて斜体となるものとする。

Another example of how memory is improved by encoding is the effect: Memory is better if you are asked to relate a word to yourself. Eric Leshikar and coworkers (2015) demonstrated the effect by having participants in the study phase of their experiment look at a series of adjectives presented on a screen for about 3 seconds each. Examples of adjectives are *loyal*, *happy*, *cultural*, *talkative*, *lazy*, and *conformist*. There were two conditions, the condition, in which participants indicated whether the adjective described themselves (yes or no), and the condition, in which participants indicated whether the word was commonly used (yes or no).

In a test that immediately followed the study phase, participants were presented with words from the study phase plus words that weren't presented and were told to indicate whether they remembered the words from before. The results, shown in Figure below, show that memory was better for the condition than the condition.

Why are participants more likely to remember words they connect to ? One possible explanation is that the words become linked to something the participants know well — . Generally, statements that result in richer, more detailed representations in a person's mind result in better memory.



Figure

	A	B	C	D	E
1.	word-length	self	common	recognition	the people they like
2.	word-length	common	self	recognition	themselves
3.	word-length	common	self	recall	themselves
4.	self-reference	self	common	recognition	themselves
5.	self-reference	self	common	recall	the people they like

【No. 37】 視知覚に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- ア. M. ウェルトハイマーは、驚き盤の観察に始まる仮現運動の実験を通じ、ゲシュタルトの考えを実証した。仮現運動とは、継時的に提示された静止対象の間に運動の印象が知覚される現象を指す。ウェルトハイマーは一連の実験において、光点の提示時間の効果を検討し、速すぎて動きが知覚されない同時時相、1 光点の往復運動と知覚される最適時相、遅すぎて動きが知覚されない継時時相の運動に分類した。最適時相で知覚される仮現運動はベータ運動とも呼ばれる。
- イ. 人の視覚認知過程のモデルには、ボトムアップアプローチとトップダウンアプローチによるものの二つがある。O. G. セルフリッジのパンデモニウム・モデルはトップダウンアプローチに基づいており、イメージデーモン、特徴デーモン、認知デーモン、決定デーモンの4種類のデーモンの分業システムが仮定されている。このモデルによると、特徴デーモンが入力された情報を特徴に分け、決定デーモンが各特徴の統合をする。
- ウ. J. J. ギブソンによる、視覚情報についての理論である間接的知覚論に基づくと、空気中の塵や物体の表面の肌理により、光源からの放射光は散乱し、空気中で乱反射する。ゆえに、照明された環境下の動物は、空気中の全方向からの光線が交差したものに囲まれることになる。この動物を囲む光のことを、ギブソンは遠刺激と呼んだ。遠刺激は、動物がそれを利用するか否かにかかわらず潜在的な情報を持ち、その情報を探る活動はアフォーダンスと呼ばれる。
- エ. G. ヨハンソンは、人の主要な関節位置に光点を取り付け、暗闇で動き始めると、静止しているときは単なる光点の集まりであったものが、光点の運動軌跡から人の運動だと知覚できることを示した。このように、人の関節位置を示す光点の情報だけで人の動きが知覚される現象をバイオリジカル・モーションという。バイオリジカル・モーションから、動作に含まれる感情や動作主体の性別などを判断できることも報告されている。

1. ア、イ
2. ア、エ
3. イ、ウ
4. イ、エ
5. ウ、エ

【No. 38】 記憶に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 過去経験や外部環境に関する長期記憶中の構造化された知識の集合をスキーマという。与えられた記銘材料がそのままの形ではなく、圧縮されたり、自分自身の言葉に置き換えられたり、材料の内容が合理化されたりする等の記憶の再生内容の変容は、スキーマの働きを反映したものと捉えることができる。
2. 一般に、互いにある程度の類似性があり、体制化されていない事柄は、互いに記憶を妨げる。これは干渉といわれる。干渉は時間的方向の観点から二つに分けられる。前に記憶したことが後の記憶を妨げることを逆向干渉といい、後で他のことを記憶することによって前の記憶が妨げられることを二重課題干渉という。
3. 多くの心的活動では、処理の途中の情報や潜在記憶から取り出した情報を一時的に蓄えておく必要がある。例えば、計算の途中の数値や、複雑な文章を読んでいるときの関連した情報などである。このような機能をもつ記憶は、短期記憶と似た性質をもつものとされるが、特に手続き記憶と呼ばれる。
4. ただ機械的に記憶項目を反復するだけでは、その項目は感覚記憶にとどまるのみで、長期記憶まで転送されにくい。このようなりハーサルを維持りハーサルという。これに対して、語呂合わせをしたり、有意味化したりするように、記憶項目に何らかの加工をした上で行うりハーサルがある。これを体制化りハーサルという。このりハーサルの方が長期記憶への転送が起こりやすい。
5. 展望的記憶が過去の回想的記憶であるのに対して、プライミング記憶は未来の記憶ともいえる。展望的記憶は、我々が人生の中で経験してきた様々な出来事に関する記憶の総体で、いわゆる「思い出」の記憶といえる。プライミング記憶では、行為を意図した時間と行為を実行する時間に開きがあることが問題で、予定していた行為のトリガーがどのようにすれば生じるのかといったことが研究としての検討課題となる。

【No. 39】 次は、P. N. ジョンソン＝レアードのメンタルモデル理論に関する記述であるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

P. N. ジョンソン＝レアードのメンタルモデル理論によると、人が推論を行うプロセスは以下のように説明できる。例えば、次の問題において結論の妥当性を問う場合を考えてみる。

前提 1：パンダはキリンの右にいる。

前提 2：コアラはパンダの左にいる。

結 論：コアラはキリンの右にいる。

問題を解くときに、前提や結論について構成した心的表象をメンタルモデルと呼ぶ。メンタルモデル理論によれば、人がどのような推論を行うかは、その人がどのようなメンタルモデルを構成したかに依存する。この推論問題に取り組む人の、動物の並び方に関するメンタルモデルには、例えば、以下のようなものが考えられる。

〈左〉 キリン コアラ パンダ 〈右〉・・・(i)

(i)のメンタルモデルに基づくと、上述の推論問題における結論は「」という推論が導かれる。

一方で、同じ推論問題について以下のようなメンタルモデルもあり得る。

〈左〉 コアラ キリン パンダ 〈右〉・・・(ii)

(ii)のメンタルモデルに基づくと、上述の推論問題における結論は「」という推論が導かれる。

これらを総合して考えると、最終的に、この推論問題の結論は「妥当でない」と考えることは。一方、上で見たように、構成したメンタルモデルによっては、 推論を行う人も現れることが予想される。このように、メンタルモデル理論は、人が 推論を導くプロセスを説明することができる。

メンタルモデル理論に従えば、正しい結論を導くために構成する必要のあるメンタルモデルの数が多いと、ワーキングメモリに がかかり、推論の誤りが生じやすくなる。

A	B	C	D	E
1. 妥当である	妥当である	正しい	誤った	バイアス
2. 妥当である	妥当でない	誤りである	正しい	負荷
3. 妥当である	妥当でない	正しい	誤った	負荷
4. 妥当でない	妥当である	誤りである	正しい	負荷
5. 妥当でない	妥当でない	誤りである	誤った	バイアス

【No. 40】 次は、E. C. トールマンが行ったラットを用いた実験研究に関する記述であるが、A～Fに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

ただし、Cには、㊦又は㊧のいずれかが入る。

E. C. トールマンの研究グループ(1930)は、14の分岐点をもつ迷路を用いて、ラットに1日1試行の訓練を2週間以上にわたって行った。ラットは次の3群に分けられた。

第1群…迷路の目標地点にたどり着くと常に報酬として餌が与えられた。

第2群…迷路の目標地点にたどり着いても餌は与えられなかった。

第3群…10日目までは と同じ条件であるが、11日目以降は と同じ条件であった。

各試行で、ラットが袋小路に入り込んだ数が誤反応として記録された。

その結果、第3群の誤反応数は、10日目までは と同等のレベルで推移したが、12日目以降は急速に と同等のレベルになった。

このような実験の結果を受けて、トールマンらは、ラットが10日目までに迷路内を探索することにより、 を形成する を行ったと考え、強化は には必要でないが、 には必要であるとした。

Cの候補

㊦：迷路の構造についての認知地図

㊧：刺激としての各分岐点と反応との連合

	A	B	C	D	E	F
1. 第1群	第2群	㊦	潜在学習	行動の遂行	学習の成立	
2. 第1群	第2群	㊧	洞察学習	学習の成立	行動の遂行	
3. 第2群	第1群	㊦	潜在学習	学習の成立	行動の遂行	
4. 第2群	第1群	㊦	洞察学習	行動の遂行	学習の成立	
5. 第2群	第1群	㊧	潜在学習	行動の遂行	学習の成立	

No. 41～No. 45 はⅢ部**科目2. 臨床心理学**です。

科目1～科目14のうちの任意の4科目を選択し、合計20題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 41】 神経心理学的アセスメントに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. ベントン視覚記銘検査(BVRT)は、30枚の図版と1枚の白紙を用い、図版の即時再生、若しくは模写や遅延再生させることによって、視覚記銘力などを評価する器質的脳機能障害のスクリーニング検査で、8歳から高齢者まで幅広く活用することが可能である。また、この検査では、視覚記銘力の評価だけでなく、DSM-5-TR(精神疾患の診断・統計マニュアル)におけるパラフィリア症群等の視空間能力障害の検出もできる。
2. WMS-Rは、精神疾患からせん妄と認知症を鑑別する目的で作成された心理検査で、世界的に広く利用されている認知症のスクリーニング検査である。「見当識」、「記銘」、「注意と計算」、「言語」、「視覚構成」の五つの領域が11の設問で構成され、同様の検査であるデンバーⅡとも相関が高く、幅広い認知機能の評価が可能である。
3. 目標の設定や達成のための計画立案・実行など、目的のある一連の行動を有効に行うための認知機能である遂行機能(実行機能)を評価する代表的な検査に、ベンダー・ゲシュタルト・テスト(BGT)がある。この検査では、提示されたカードが色・形・数のどの基準で分けられているのかを類推させることで、遂行機能と関連が深いとされる側頭葉内側部の機能を評価する。
4. 失語症とは、脳の損傷により言語機能に異常がみられる状態をいい、損傷部位により言語機能の様々な側面に障害が現れる。日本語版 WAB 失語症検査の結果は、流暢性、話し言葉の理解、復唱、呼称の項目の得点から、全失語、ブローカ失語、ウェルニッケ失語、健忘失語に分類される。
5. DSM-5-TRにおける神経認知症群の診断基準には、認知領域の一つである複雑性注意の評価がある。複雑性注意には、選択性注意や持続性注意、転換性注意、処理速度などが含まれる。トレイル・メイキング・テスト(TMT)は、幅広い注意機能の評価に用いられるアセスメントで、標準図案の欠如部に合致するものを六つの選択図案の中から一つだけ被検査者に選ばせる。

【No. 42】 統合失調症に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 統合失調症は、内因性精神疾患の一つで、20歳から50歳までの年齢で発症することが多い。人口の約2～5%の割合で生じ、性差や文化差はないものの、遺伝による影響は少なくないと考えられている。
2. 統合失調症で生じる感情の平板化などの陽性症状は、神経伝達物質、特に脳内モノアミンの一つであるアセチルコリンの過剰と関連しているとされる。そのため、薬物療法としては、アセチルコリン受容体拮抗作用が主体の抗精神薬などが用いられる。
3. K. シュナイダーは、統合失調症の基本的な症状を「連合弛緩」、「考想奪取」、「両価性」、「自閉」の四つにまとめた。そのうち、「連合弛緩」は思考にまとまりがなくなることを、「考想奪取」は自分の考えが他人に筒抜けになっていると感じることを指す。
4. 統合失調症の発病初期には、抑うつ気分や思考力・記憶力の低下、易疲労感、不眠、不活発などの回避症状が現れ、その後、妄想・幻覚が生じる。統合失調症では、幻覚の中でも特に幻視が出現しやすい。
5. 統合失調症への支援では、薬物療法に加えてソーシャルスキル・トレーニング(SST)や心理教育が用いられる。また、統合失調症は、家族からの批判や敵意のようなネガティブな感情表出(EE)が多いと再発しやすいことが知られているため、家族への介入も有効である。

【No. 43】 次は、短期療法に関する記述であるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

短期療法は、催眠療法家の の影響を受けて発展した心理療法の一群を指し、治療期間を効率的にできるだけ短くすることで、クライアントの時間的・経済的な負担軽減を目指す。

短期療法では複数のモデルが考案されており、代表的なものには、 アプローチや アプローチなどがある。

アプローチは、クライアントの取るコミュニケーション・パターン自体が問題を維持・再生産させていると考え、この悪循環を断つことを目指す。

アプローチは、S. ド・シェイザーやI. K. バークによって提唱された方法で、過去に遡って問題の原因を理解するよりも、より望ましい未来像に目を向け、将来の解決像を構築していく点に特徴がある。また、クライアント自身の に着目し、それらを最大限活用しようとする特徴も併せもつ。そのため、例外探しやミラクル・クエスチョン、これまでどのように問題に対処してきたかを問う など、特徴的な質問技法を使い、問題解決についての や手がかりに気付く手助けをする。

	A	B	C	D	E
1.	M. H. エリクソン	EFT	解決志向	エンパワメント	エンプティ・チェア
2.	M. H. エリクソン	EFT	戦略的	リソース	エンプティ・チェア
3.	M. H. エリクソン	MRI	解決志向	リソース	コーピング・クエスチョン
4.	G. ベイトソン	EFT	解決志向	リソース	コーピング・クエスチョン
5.	G. ベイトソン	MRI	戦略的	エンパワメント	コーピング・クエスチョン

【No. 44】 精神分析に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 防衛機制とは、葛藤や不安、恐怖などの心の危機状態に対し、自己を守るために採用する、主として無意識的な手段のことである。防衛機制には、知覚しているが認めると不安を引き起こすような現実の認知を拒否する「抑圧」や、受け入れ難い欲求や衝動などを、本来の意味や方向とは逆の形で表出する「置き換え」などがある。
2. 精神的発達論によれば、生後から3歳頃までが口唇期、3歳頃から5歳頃までが男根期、6歳頃から12歳頃までが肛門期、それ以降の思春期が性器期である。男根期は、エディプス・コンプレックスという概念にみられるように、「父、母、子」の三者関係をベースとして展開し、その後の社会性の発達に大きな影響を与える時期とされている。
3. 精神分析においてクライアントに求められる規則に「中立性」がある。これは、結婚、離婚、転職、転居などの人生の大きな決断を分析期間中はできるだけ控えるようにするという原則である。他方、セラピストに求められるものとして「受け身性」があり、セラピストは転移や逆転移といった問題が生じないように留意しながらクライアントの自由な語りを尊重し、理解と解釈を通じてクライアントと交流することで、精神分析的治療がなされる。
4. 日本の精神分析の発展に大きく貢献した人物の一人である小此木啓吾は、リビドーや相対的依存などS.フロイトが提唱した原始的欲求とは異なるものとして、「甘え」の概念を提唱し、著書『「甘え」の構造』を出版した。これは、母子関係を中心とした、より原始的な水準の愛情を指すものであり、日本人にとってなじみのあるものであるとともに、海外の精神分析家にも注目された。
5. 意見の対立により、S.フロイトから離反したC. G. ユングは、フロイトと同様に無意識を重視したが、心の構造として、意識のほかに、個人的無意識と、それよりも深層に位置する集合的無意識(普遍的無意識)があるとした。また、ユングは、集合的無意識の内容を元型と呼び、元型には影、アニマ、アニムス、グレートマザーなどがあるとした。

【No. 45】 精神や身体についての症状や障害に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. DSM-5-TR(精神疾患の診断・統計マニュアル)によると、ボーダーラインパーソナリティ症の診断基準として、不安定で激しい対人関係様式、同一性の混乱、自分が重要であるという誇大な感覚、他人の気持ち及び欲求を認識しようとしないうといった共感の欠如が挙げられている。パーソナリティ症群の中でもボーダーラインパーソナリティ症についての研究は少なく、治療の指針となるようなエビデンスは不足している。
2. DSM-5-TRによると、レビー小体型認知症は多様な精神症状とパーキンソニズムを示す疾患である。行動障害型と言語障害型があり、診断の際はいずれかの基準への適合を要するが、多数の人が両方の特徴を示す。行動障害型は、行動の脱抑制や無気力の症状を呈したり、自己管理及び自己責任に対する関心を失ったり、社会的不適切行動を示す。認知症全体におけるレビー小体型の出現頻度はアルツハイマー型と同程度であるとされている。
3. 心身症とは、身体疾患の中で、その発症や経過に心理社会的因子が密接に関与し、器質的ないし機能的障害が認められる病態をいう。ただし、神経症やうつ病など、他の精神障害に伴う身体症状は除外される。心身症とみなされることがある身体疾患の例として、潰瘍性大腸炎、気管支ぜんそく、狭心症、片頭痛などが挙げられる。治療法として、リラクゼーション法の一つである自律訓練法などがある。
4. 強迫症は、繰り返し生じる思考である強迫観念や、この強迫観念に反応して繰り返し行われる強迫行為から構成され、それらに長時間を費やすことにより日常生活に影響が生じ、強い苦痛を伴う。強迫症は、DSM-5-TRにおける不安症群の一つであり、女性では児童思春期発症例が多く、男性では20代以降の発症例が多い。治療法として薬物療法はほとんど用いられず、例えば暴露反応妨害法といった心理療法が支持されている。
5. 双極症には、抑うつエピソードと軽躁エピソードが反復して生じる双極症Ⅰ型と、躁エピソードの存在を中核とする双極症Ⅱ型がある。いずれの型においても、抑うつエピソードよりも躁あるいは軽躁のエピソード期間が長いことが特徴である。また、1年以内に4回以上の躁、軽躁又は抑うつエピソードの基準を満たすエピソードが認められる場合を急速交代型(ラピッドサイクラー)という。

No. 46～No. 50 はⅢ部**科目 3. 教育環境学**です。

科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 46】 知識基盤社会(knowledge-based society)における教育に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 知識基盤社会は、昭和 62(1987)年の臨時教育審議会答申で示された概念であり、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会を意味する。これは、1960 年代から進められた「生きる力」を育む教育が招いた学力低下問題に対抗し、正確な知識の集積を重視する教育の構築を目指す概念とされる。
2. 知識基盤社会の特質として、知識には国境がなくグローバル化が進むことや、競争と技術革新が絶え間なく生まれることが指摘される。そして、知識の進展は旧来のパラダイムの転換を伴うことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要となり、性別や年齢を問わず広範な層の参画が促されるなどの特質も踏まえ、知識基盤社会では、人々の知的活動を資源として生かす上で、教育を通じた人材の養成が科学技術の振興とともに重要とされる。
3. 知識基盤社会の担い手を育成するために、1997 年に OECD が開始した DeSeCo プロジェクトでは、社会における価値ある知識の集合体を表す「キー・コンピテンシー」が示された。キー・コンピテンシーは、同機構が実施する国際学力調査の TIMSS にも採用されており、我が国は 2000 年代に入って以降、同調査の読解力部門で 3 位以内を維持している。
4. 知識基盤社会では、情報通信技術 (ICT) の進展によって知識の生産や流通が効率化され、情報のアクセスが容易になるため、デジタルデバイドの拡大が望ましいとされる。GIGA スクール構想では、AI 技術を通じたデジタルデータの収集や分析・活用のできる人材の育成が掲げられ、令和 5 (2023) 年から義務教育段階の学校に「情報通信技術支援員 (ICT 支援員)」を 1 名以上置くことが法令上義務付けられている。
5. 近年における知識基盤社会の具体的な例として、平成 28(2016)年に政府の「第 5 期科学技術基本計画」において提唱された Society5.0 構想がある。Society5.0 では、機械化された工場で大量生産された製品を電力、石油、石炭などのエネルギーを使って流通させるスマートシティを推進するとともに、学校において、文理分断を強化して教科別に専門知識の深化を図る指導を、教師主導の下で計画的に行うことが求められている。

【No. 47】 次は、2001年にユネスコ総会で採択された「文化的多様性に関する世界宣言 (UNESCO Universal Declaration on Cultural Diversity)」と、同宣言実施のための行動計画要旨 (Main lines of an action plan for the implementation of the UNESCO Universal Declaration on Cultural Diversity)の一部をそれぞれ抜粋したものであるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

ただし、文頭の大文字と小文字は区別しないものとする。

UNESCO Universal Declaration on Cultural Diversity

Article 1 — Cultural diversity: the common heritage of humanity

Culture takes diverse forms across time and space. This diversity is embodied in the and plurality of the identities of the groups and societies making up humankind. As a source of exchange, innovation and creativity, cultural diversity is as necessary for humankind as biodiversity is for nature. In this sense, it is the common heritage of humanity and should be recognized and affirmed for the benefit of generations.

Main lines of an action plan for the implementation of the UNESCO Universal Declaration on Cultural Diversity

The Member States commit themselves to taking appropriate steps to disseminate widely the “UNESCO Universal Declaration on Cultural Diversity” and to encourage its effective application, in particular by cooperating with a view to achieving the following objectives:

《中 略》

3. the exchange of knowledge and best practices in regard to cultural pluralism with a view to facilitating, in diversified societies, the inclusion and participation of persons and groups from varied cultural backgrounds.
4. Making further headway in understanding and clarifying the content of cultural rights as an integral part of human rights.
5. Safeguarding the heritage of humanity and giving support to expression, creation and dissemination in the greatest possible number of languages.
6. Encouraging diversity — while respecting the mother tongue — at all levels of education, wherever possible, and the learning of several languages from the earliest age.
7. Promoting through education an awareness of the positive value of cultural diversity and improving to this end both curriculum design and teacher education.

A	B	C	D
1. uniqueness	present and future	fostering	linguistic
2. uniqueness	present and future	instructing	historical
3. uniqueness	past	instructing	linguistic
4. commonality	present and future	instructing	linguistic
5. commonality	past	fostering	historical

【No. 48】 教育社会学の諸理論に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. K. マルクスは、労働者としての教師には、状況に応じて自他の感情を管理することが職務として要請されるようになったとし、このことを「感情革命」と表現した。そして、労働者としての教師は、その場に適合的とされる感情を実際に経験するのではなく、表情や身振りなどを作り上げることによってあたかも経験しているかのように演技する「サバイバル・ストラテジー」を駆使し、自己感情からの疎外を回避しようとする旨を指摘した。
2. J. ローゼンバウムは、どの学校に入るかによってその後の進路選択の機会や範囲が限定されるというように、人々の社会的地位の達成過程において、ある時点までに獲得した地位が次の段階で就き得る社会的地位の範囲を限定する社会を「メリトクラシー」と表現した。そして、メリトクラシーの下では、そもそも人々の社会的地位が、個人の能力や努力によってではなく、その親の富や願望によって規定されていると指摘した。
3. R. P. ドーアは、獲得した学歴によって社会的地位が規定される程度の高い学歴社会の特徴を分析し、産業化の先発国と後発国を比較すると先発国であるほど学歴社会化が進みやすいことを見いだした。一方で、著書『資格社会』において、後発国においては獲得した学歴よりも取得した職業資格によって社会進出や社会的地位の上昇の機会が左右されると指摘し、このような社会を「資格社会」と定義した。
4. B. バーンステインは、話し言葉に着目し、労働者階級の家庭では、話題に対する前提や理解を共有する聞き手を想定した主観的・具体的な「限定コード」を多く用いるのに対し、中産階級の家庭では、話題を共有しない聞き手を想定した客観的・抽象的な「精密コード」を多く用いるとした。そして、学校における教育場面は精密コードを前提としているため、労働者階級の子供は学校生活になじめず、成績不振などの教育的不成功につながると指摘した。
5. M. トロウは、大学全体に占める国公立校の割合によって、国家の高等教育の発展段階を「エリート」と「マス」に二分し、これらの段階において高等教育は量的・質的に変容すると説いた。国公立大学が全体の50%以上を占めるマス段階の国家においては、産業社会に適応し得る全国民の育成が高等教育の主要な機能であることから、高等教育の機会は万人の義務であるとされる。

【No. 49】 我が国における生涯学習及び社会教育に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 平成 18 年に教育基本法が改正され、生涯学習の理念に関する規定が新設されたことを受け、その実現を目指し、生涯学習の振興のための施策の推進体制や地域における生涯学習の機会の整備を図ることを目的とした生涯学習振興法* が制定された。その後、同法を具体化するため、社会教育法、図書館法、博物館法がそれぞれ制定された。
2. 学校教育法において、学校教育上支障のない限り、学校には、社会教育に関する施設を附置し、又は学校の施設を社会教育のために利用させることができる旨が定められている。また、社会教育法において、国立学校又は公立学校の管理機関は、学校教育上支障がないと認める限り、その管理する学校の施設を社会教育のために利用に供するように努めなければならない旨が定められている。
3. 社会教育法において、社会教育とは、「生涯学習振興法に基づき、主として青少年及び成人に対して行われる、学校の教育課程として行われる教育活動を含むあらゆる教育活動」をいう旨が定められており、図書館は社会教育のための機関と位置付けられている。図書館の設置や運営に関する事項は図書館法に定められており、同法でいう「図書館」は、学校附属の図書館や図書室もその定義に含むとされている。
4. 社会教育法において、社会教育主事とは、社会教育事業の企画・立案・実施等を担う専門的職員であり、社会教育を行う者に対して専門的技術的な助言と指導を与えるほか、命令及び監督をする権限を有する旨が定められている。社会教育主事は、都道府県及び市町村の教育委員会が学校教育関係者や社会教育関係者、学識経験者等の中から委嘱し、各社会教育施設に置くこととされている。
5. 社会教育法において、公民館は、国又は都道府県が、市区町村その他一定の区域を単位としてその住民の教養の向上や健康の増進等のために設置する旨が定められている。このような公民館の意義を踏まえ、その運営維持のため、公民館は専ら営利を目的として事業を行うことができるとされている。

* 生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律

【No. 50】 次は、諸外国における教育制度に関する記述であるが、A～Dに該当する国名の組合せとして最も妥当なのはどれか。

なお、データは文部科学省の『諸外国の教育統計 令和6(2024)年版』による。

- A. 主として義務教育は9年で、そのうち初等教育は基礎学校で4年間行われる。前期中等教育段階から、大学進学を目指す者が主に進む学校種、職業教育学校への進学や中級の職への就職を目指す者が主に進む学校種、卒業後就職して職業訓練に入る者が主に進む学校種の三つに分岐する伝統的な形態が存在するほか、近年、総合的な教育課程を備えた総合制学校も設けられている。
- B. 義務教育は3歳から16歳までの13年とされており、そのうち初等教育は小学校で5年間行われる。前期中等教育段階の4年間の観察・進路指導の結果に基づいて、生徒は後期中等教育の諸学校・課程に振り分けられ、高等教育機関に入学するには、原則として、中等教育修了と高等教育入学資格を合わせて認定するバカロレアを取得しなければならないとされている。
- C. 義務教育は5歳から16歳までの11年とされており、そのうち初等教育は一般的に6年制の初等学校で行われる。前期中等教育は、原則無選抜のコンプリヘンシブ・スクールの形態が一般的であるが、選抜制のグラマー・スクールやモダン・スクールなどに振り分ける地域も一部にある。後期中等教育の課程・機関には、中等学校に設置されているシックスフォームと呼ばれる課程や独立の学校として設置されているシックスフォーム・カレッジがある。
- D. 義務教育は6歳から15歳までの9年とされており、そのうち初等教育は初等学校で6年間行われる。前期中等教育は、中学校で3年間行われ、後期中等教育機関には、普通教育を中心とする教育課程を提供する普通高等学校と職業教育を提供する職業高等学校があり、普通高等学校には各分野の才能がある者を対象とした高等学校も含まれている。

	A	B	C	D
1.	ドイツ	フランス	英国(イングランド)	韓国
2.	ドイツ	フランス	米国	英国(イングランド)
3.	フランス	中国	英国(イングランド)	韓国
4.	フランス	中国	韓国	英国(イングランド)
5.	中国	韓国	米国	フランス

No. 51～No. 55 はⅢ部**科目 4 . 教育心理学**です。
科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。
 解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 51】 次は、非認知能力に関する記述であるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

J. J. ヘックマンは、経済学的な視点から幼児教育の重要性を指摘した。その流れで、従来の学力テストや知能検査によって測定されてきた能力ではない、いわゆる非認知能力が将来の成功などを予測することが、認識されるようになってきた。こうした背景もあり、近年、非認知能力への社会的関心が高まっている。ただし、「非認知」的な特徴に注目する動き自体は決して新しくない。例えば、E. L. ソーンダイクによる や、P. サロヴェイとJ. D. メイヤーが理論化した など、非認知能力と類似する概念といえる。

サロヴェイとメイヤーは、 を「自他の感情を認識して区別し、思考や行動に活用する能力」と定義した。また、メイヤーらは、 に基づいて を四つの領域に分け、4枝モデルを提唱し、 によってこの4枝モデルの各要素を測定する を開発した。

A	B	C	D	E
1. 社会的知能* ¹	情動知能* ²	能力モデル	客観的テスト	MSCEIT
2. 社会的知能	情動知能	混合モデル	リッカート尺度	TEIQue
3. 社会的知能	社会情動的スキル* ³	能力モデル	リッカート尺度	TEIQue
4. 情動知能	社会的知能	能力モデル	リッカート尺度	MSCEIT
5. 情動知能	社会情動的スキル	混合モデル	客観的テスト	TEIQue

*1 social intelligence
 *2 emotional intelligence
 *3 social-emotional skills

【No. 52】 状況論的アプローチに基づく学習に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 実践共同体の正式なメンバーとして実際の活動に参加し、参加の形態を徐々に変化させながら、より深く実践共同体の活動に関与するようになる過程を正統的周辺参加という。そこでは、実践への参加の仕方が、十全的な参加から正統的かつ周辺的な参加へと変化する。この考えに基づくと、子どもが経験する練習や訓練の結果として、比較的永続的な、客観的に観察可能な行動上の変化が生じることが学習とみなされる。
2. 経験の浅い者が熟達者の指導の下で知識やスキルを獲得する、社会的相互作用による学習方法をチームティーチングという。この方法は、熟達者によって最終目標に至るまでの下位目標が難易度順に段階的に配列され、学習者はそれらを一段階ずつ漸進的に学習を進めていくこと、学習者による反応がなされた場合に初めて強化が与えられること、学習者が問題に答えると直ちにその正誤が知らされることなどを特徴とする。
3. 知的作業の社会的実践が、制度的分業体制や各種の道具・テクノロジー、成員間のコミュニケーションなどから構成される状況との相互作用システムの中で生じるという考え方を、状況的行為という。この視点によれば、人間は、発達早期から対象の認知に際して働かせる認知構造をもっており、新奇な状況に際して、その認知構造に新しい情報や経験を組み込んで対象を理解しようとしたり、また自身の認知構造を変容させることで対象を理解したりする。
4. 認識は、個人の頭という閉じた系の中にあるのではなく、他者と相互作用し合い、協同活動する過程の中で生じる現象と捉える考え方を、身体化された認知という。この考え方では、はじめは他者の中にあつた知識が、他者、特に習熟した大人との相互作用によって個人の内部に取り込まれ、しだいに自己のものとして内化される過程を思考や認識の発達と捉える。その相互作用の過程においては、先行オーガナイザーの働きが重要視される。
5. 近代の学校教育制度における学校での学びは、現実とは切り離された抽象的な「学校知」の獲得に偏っていると指摘されることがあり、中でも、学校という文脈を離れた日常生活との乖離が問題視されてきた。これに対し、普及したインターネットを活用する「分散化された学習環境」が提唱された。これは、学習の場を学校に限らず、インターネット等を活用することにより、学校の枠を超えてある種の具体的な認知的実践に学習者を参加させる学習環境を指す。

【No. 53】 学校教育等において指導や援助を要する子どもやその支援に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 森田洋司らは、いじめについて、当事者を取り巻く子どもたちも含めて考える必要があると指摘し、いじめの4層構造論と呼ばれる見解を示した。それによれば、いじめには「加害者」と「被害者」のほかに、いじめを面白がりはやし立てる「観衆」、見て見ぬふりをする「傍観者」が存在し、4者が密接に絡まり合う中でいじめが起こるとされる。また、「傍観者」層の一部が分化し、いじめを批判し止めようとする「仲裁者」が現れることもある。
2. 学校や家庭で素行上の問題を頻発させる子どもがおり、関連する精神疾患の一つとして反抗挑発症がある。DSM-5-TR(精神疾患の診断・統計マニュアル)によれば、反抗挑発症は、易怒的な気分、挑発的行動、執念深さなどの情緒・行動上の症状を特徴とし、注意欠如多動症をもつ者では発症の頻度が低いこと、しばしば摂食障害の発症に先立ってみられることが指摘されている。
3. R. J. ハヴィガーストによれば、中学・高校の年代を含む青年期の発達課題は、同じ年頃の友人とうまく付き合うことの学習や、男子又は女子としての適切な社会的役割の学習などである。この年代の子どもは、様々な心理的な葛藤を抱え、悩みながら成長するが、未熟であるため問題や悩みへ適切な対処ができず、起立性調節障害、過敏性腸症候群、過換気症候群、急性ストレス症などの症状につながることも少なくない。
4. 不登校の子どもが学級へ復帰する前段階として、別室や保健室への登校から復帰の練習を始める場合がある。こうした登校に慣れたら、次は放課後に友人と作業をするなどの少し難しい場面設定に取り組みせ、徐々に発展させて学級への復帰に到達するよう働き掛ける。この方法は、S. ミニューチンが発展させたジョイニングと呼ばれる技法であり、認知行動療法の考え方に基づいている。また、仲間どうしの支え合いである構成的グループエンカウンターを活用して不登校の子どもを支援することもある。
5. 学校における3段階の心理教育的援助サービスのモデルにおいて、1次的援助サービスは全ての子どもを対象とし、対人スキルの開発の援助、学習意欲を高める授業など、多くの児童生徒に共通する基礎的な援助ニーズに応じることを目指す。2次的援助サービスは不登校、いじめ、非行などの問題のために特別な援助が必要な子どもを対象とした働き掛けであり、3次的援助サービスは過去に2次的援助サービスを受けた子どもを対象に問題の再発予防を図るものである。

【No. 54】 次は、学齢期の子どもの学力に関する記述であるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

学力とは、狭義には、学校教育の中で教授される知識や技能を子どもがどれだけ身に付けているかを意味し、学力テストを用いて測定される。日本の学齢期の子どもの学力をめぐる問題の一つとして、学習内容の抽象化と認知発達の個人差などのため、学校での学習についていけない子どもが目立ち始める、A という現象が知られている。こうした現象は最初、聴覚障害児に対する教育上の問題として提起されたが、後に広く子どもの学力全般の問題を指して A という用語が用いられるようになった。また、複数の国際的な学力調査の結果から、藤村宣之(2012)において、日本の学齢期の子どもの学力では、「B」に対して、「C」が相対的に低い傾向がみられることも指摘された。

学齢期の子どもの学力に関連する要因の一つとして、D が挙げられる。D は情報の保持と処理を同時に行う認知能力で、児童期を通じて発達する。これが十分に機能しないと、学校での学びに様々な面で困難を来すことが指摘されている。ただし、S. E. ギャザコールとT. P. アロウェイ(2008)によると、D の個人差は大きく、7歳児の上位10%はE 児の平均とおよそ一致する一方で、下位10%は4歳児の平均を下回ることが報告されている。

A	B	C	D	E
1. 9歳の壁	手続き的知識・スキル	概念的理解	ワーキングメモリ	10歳
2. 9歳の壁	手続き的知識・スキル	概念的理解	感覚記憶	15歳
3. 9歳の壁	概念的理解	手続き的知識・スキル	感覚記憶	10歳
4. 小1プロブレム	手続き的知識・スキル	概念的理解	感覚記憶	10歳
5. 小1プロブレム	概念的理解	手続き的知識・スキル	ワーキングメモリ	15歳

【No. 55】 道德性の発達に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

ア. J. ピアジェは、子どもを対象に、道德に関する様々な例話を用いて善悪の判断の発達について検討し、子どもの認知的な道德判断が、結果論的判断から動機論的判断へと移行することを示した。また、ピアジェは、道德性の発達は、他律的に大人によって制御される段階から、自律的な段階へと向かうものであると想定した。

イ. L. コールバーグは、モラル・ジレンマ課題という葛藤状況を含む例話に対して、どのような理由付けをするかを考慮し、2水準4段階から成る道德性の発達段階を提唱した。この理論では、非難や不名誉への恐れに基づいて判断する前慣習的水準から、良心や人間の尊厳の原理に基づいて判断する慣習的水準へ発達することが示された。

ウ. C. ギリガンは、道德性の発達をジェンダーの観点から説明し、道德基盤理論を提唱した。ギリガンは、これまでの道德性の発達理論が、人間関係や気配り、共感を大切にす「配慮と責任」を重視した女性的な視点に偏っていると批判し、「正義の道德性」の視点を取り入れる必要性を主張した。

エ. E. チュリエルは、社会的ルールの中には、他者の権利や福祉に関する道德と、対人関係を円滑にし社会秩序を維持する社会的慣習が存在し、それらを概念的に区別すべきだと主張した。また、チュリエルは、道德と社会的慣習を、一般化可能性、規則随伴性、文脈性、変更可能性、権威依存性の5点で区別した。

1. ア、イ
2. ア、エ
3. イ、ウ
4. イ、エ
5. ウ、エ

No. 56～No. 60 はⅢ部**科目 5. 教育経営学**です。

科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 56】 学級編制に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 公立小中学校の一学級当たりの児童生徒数について、学校設置者が、学校教育法の規定する学級編制の標準と異なる数を定めることは認められていない。このことから、同法により各公立小中学校の総学級数が決定されることになり、このうち公立小学校は、一学級当たり少なくとも担任一人及び副担任一人を配置することが定められているため、同法によって公立小学校に配置する教員の定数も決定されることになる。
2. 「学級」が法令で初めて規定されたのは第二次世界大戦後の学制改革であり、それ以降小・中・高等学校では、学級を基本的な単位集団として様々な教育活動が行われてきた。近年の規制緩和の流れに応じて学級制度は柔軟に捉えられるようになり、各学校設置基準の改正により、現在では学校内の全児童生徒を習熟度別に編制する異年齢学級の設置が規定上認められている。
3. 公立小学校における学級編制の標準について、同学年の児童で編制する学級の場合、小学校第一学年は 35 人、その他の各学年は 40 人とされていたものが、令和 3 (2021) 年の法改正により一律に引き下げられることとなった。具体的には、同年度から、第二学年から第六学年まで学年進行により、学級編制の標準を 35 人に段階的に引き下げるとされている。
4. 2021 年に公表された OECD の報告書*によれば、国公立小学校における一学級当たりの児童数(学級規模)の平均についてみると、我が国は OECD 加盟国平均を大きく下回り、OECD 加盟国のうち英国に次いで 2 番目に小さい。これに対し、OECD 加盟国のうち国公立小学校の学級規模が大きい傾向にあるのは北欧諸国であり、フィンランドでは我が国の約 1.5 倍となっている。
5. 私立学校は、建学の精神を尊重することから、法令による学級規模に関する規制の対象外となっているため、一学級当たりの児童生徒数は設置者である学校法人に一任されている。文部科学省の「学校基本調査」によれば、令和 5 (2023) 年度の私立小学校における一学級当たりの児童数は全体の平均で 45 人を上回っており、近年そうした学級を指す「すし詰め学級」という表現が用いられるようになっている。

* 「図表でみる教育 2021 年版(Education at a Glance 2021)」

【No. 57】 我が国における児童生徒に対する懲戒や体罰に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 学校における懲戒には、児童生徒の教育を受ける地位や権利に変動をもたらす法的効果を伴うものと、法的効果を伴わないものがある。法的効果を伴うものとして、退学、停学、出席停止の3種類が法令上規定されており、このうち退学は国公立を問わず学齢児童生徒に対して行うことができないのに対し、停学は私立学校の学齢児童生徒に対して行うことができる。
2. 文部科学省の『生徒指導提要』（令和4年12月改訂）において、懲戒行為が体罰に当たるかどうかは、諸条件を総合的かつ客観的に考慮し、個々の事案ごとに判断する必要があることが示されている。諸条件の具体例として、当該児童生徒の年齢、健康、心身の発達状況、当該行為が行われた場所的・時間的環境、懲戒の態様等が挙げられている。
3. 文部科学省の通知「体罰の禁止及び児童生徒理解に基づく指導の徹底について」（平成25年3月）によると、児童生徒から教員等に対する暴力行為に対して、教員等が防衛のためにやむを得ずした有形力の行使についても、懲戒行為に該当する場合があるとされている。また、これにより児童生徒に身体への侵害又は肉体的苦痛若しくは精神的苦痛を与えたと判断された場合は、体罰に該当するとされている。
4. 文部科学省の通知「体罰の禁止及び児童生徒理解に基づく指導の徹底について」（平成25年3月）によると、校長は、体罰の防止に向け、研修の実施や教員等向けの指導資料の作成など、教員等が体罰に関する正しい認識を持つよう取り組むこととされている。また、教員等の体罰を把握した場合、それが教育上必要であると認める場合を除き、直ちに児童相談所へ報告することが必要であるとされている。
5. 文部科学省の調査*によれば、令和5年度の国公立学校における体罰の発生件数を学校種別にみると、小学校が最も多く、高等学校の約4倍である。また、同年度の国公立学校における体罰時の状況（場面）についてみると、小・中・高等学校のいずれも「休み時間」が最も多く、小学校では「授業中」が、中学校及び高等学校では「部活動」が、それぞれこれに続いている。

* 「体罰等の実態把握について（令和5年度）」（令和6年12月）

【No. 58】 教員の養成や研修等に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 平成 31 年度から教員不足の解消を狙いとして、普通免許状取得のための大学の教職課程において、その履修上の負担軽減を図るため必要単位数の総数を削減し、全ての学校種で教育実習を 1 週間に減らすとともに、介護等体験などの実習科目を廃止した。一方で、教科の専門性を担保するため「教科及び教職に関する科目」を「教科に関する科目」と「教職に関する科目」に分け、「教科に関する科目」では従前の「教科及び教職に関する科目」より多い必要単位数が規定された。
2. 令和 4 年の中央教育審議会答申*において、教員の資質能力の向上を図るために、教員養成段階での教職大学院への進学を義務付け、教職大学院に進学していない現職の教員には、長期研修での教職大学院の課程の履修及び修了を義務付けることが示された。これを受けて教職大学院の需要が増加し、設置が急速に進められた私立大学の教職大学院の数は、令和 5 年 5 月現在、国立大学の教職大学院の数を上回っている。
3. 公立小中学校教員への法定研修の実施主体は、原則として文部科学省であるため、国の求める教員像に即した資質能力の向上を図ることを目的とした研修が行われている。法定研修は学校教育法によって毎年実施することが義務付けられており、例えば、新任教員は採用後 3 年間にわたって初任者研修を受講しなければならないとされている。
4. 現在、我が国において教員評価は多くの地方自治体で導入されており、小中学校の教員については、教育委員会が年度当初に 1 年間で達成する数値目標を設定し、年度末に教育委員会がその目標の達成度合いを評価する。教員評価を実施する地方自治体の大半において、このように能力を数値化して測定することで教員の質的向上を図る評価手法を採用している。
5. D. ショーンは、教員をはじめとする現代の専門家の仕事は、不確実性等のために専門的知識・技術の体系化が難しいと指摘した。そして、専門的・科学的な知識を実践に適用する「技術的熟達者」から「行為の中の省察」を实践原理とする「反省的(省察的)実践家」への専門家モデルの転換を提唱した。

* 『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～(答申)(令和 4 年 12 月)

【No. 59】 我が国の教員の勤務実態及び学校における働き方改革に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. 平成31年の中央教育審議会答申*において、勤務時間管理の徹底が必要であるとされ、教師一人一人が勤務時間を正確かつ詳細に自己申告するとともに、校長や管理職は過少申告等を防ぐために風通しの良い職場風土の醸成に努めることとされた。同答申を踏まえ、文部科学省の「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」は、その実効性を高めるべく法的根拠のある省令に格上げされるとともに、これに違反した場合の罰則規定も設けられた。
- B. 平成31年の中央教育審議会答申において、教師でなければできない業務を明確化するとともに各業務の適正化を図るため、学校・教師が担ってきた代表的な業務の在り方に関する考え方が示された。例えば、「登下校に関する対応」や「放課後から夜間などにおける見回り、児童生徒が補導された時の対応」等は、基本的には教師が担うべき業務である一方、「進路指導」は、業務内容に応じて地方公共団体や教育委員会等が行うべきであると整理された。
- C. 文部科学省の「教員勤務実態調査」によると、令和4年度では、平成28年度と比べて中学校における部活動の週当たり平均活動日数は減少している。また、令和4年度における中学校の運動部活動顧問の1週間当たりの部活動従事日数についてみると、平均で週5日とする者の割合が最も高い。
- D. 文部科学省の「教員勤務実態調査」によると、令和4年度では、平成28年度と比べて学校閉庁日を実施しているとする小中学校の割合が増加している。また、令和4年度では、学校の働き方改革又は業務改善に関して、時間外勤務の縮減に向けた業務改善方針や計画等を策定しているとする小中学校が全体の9割以上を占めている。

* 「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について(答申)」(平成31年1月)

1. A
2. D
3. A、B
4. B、C
5. C、D

【No. 60】 我が国の学校組織に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. 現在の小・中・高等学校の組織は鍋蓋型の単層構造とされており、校長と教頭・副校長が管理職として位置付けられ、主幹教諭、各種主任を含めた残りの教職員が実質的に横並びで組織されている。こうした鍋蓋型の単層構造は、管理職が少ないことで校長がリーダーシップを発揮しやすい組織構造であるとされている。
- B. 学校が抱える課題の複雑化・多様化への対応や子供と向き合う時間の確保等のため、「チームとしての学校」の実現が求められている。その実現のための視点として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門スタッフが参画する多様な専門性に基づくチーム体制の構築や、学校のマネジメント機能の強化、教員一人一人が力を発揮できる環境の整備が挙げられている。
- C. 学校事務職員は、小中学校への配置が法令上義務付けられていないため、規模によっては事務職員が配置されない小中学校もある。事務職員は教員と同様に教員免許の取得が求められているため、庶務や財務等の本来業務に加えて、教員が足りない場合は教員の代替として授業を行うことと規定されている。
- D. 学校と保護者や地域住民等が目標やビジョンを共有し、共同して学校づくりを行う仕組みとして、学校運営協議会が挙げられる。これは、保護者や地域住民等が委員として任命され、学校運営への必要な支援等に関する協議を行う合議制の機関であり、教育委員会や校長に対して学校運営に関する意見を述べるなどことができるなどの権限が法令上規定されている。

- 1. A、C
- 2. A、D
- 3. B、C
- 4. B、D
- 5. C、D

No. 61～No. 65 はⅢ部**科目 6. 教育方法学**です。

科目 1～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 61】 幼児教育に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

ア. 江戸期の儒学者である貝原益軒は、著書『和俗童子訓』において、幼児期からの「^{あらかじめ}予する」教育の重要性を説いた。同書では、子供の自発的な模倣と習熟による身体知の獲得が重視され、人の善悪は本人を取り巻く対人環境に左右されると捉えられた。

イ. J. H. ペスタロッチは、人間の頭と手と心の調和的な発達を教育の目的とし、その方法として自然の歩みに即した技術(メトード)を提唱した。ペスタロッチは、道徳性の陶冶が教育の中心をなすと考え、合自然的な教育が行われる原点は家庭の居間であり、母の愛が子供の善への意欲を育むとした。

ウ. F. フレーベルは、著書『人間の教育』において、独自の「人智学」に基づき、形に対する感覚や身体の芸術的表現力を育む特有の幼児教育の方法を完成させた。フレーベルは、3歳から6歳にかけての子供の感覚が著しく発達する「感覚の敏感期」に五感を鍛える感覚教育・訓練を徹底する必要があるとした。

エ. M. モンテッソーリは、子供は神性を内に秘めた存在であり、教育はその神性の発現を目的とするものであると考え、特定分野に特異な才能を有する子供(ギフトド)を対象とした教育の研究と実践に注力した。その成果を上流階級出身の幼児に対する英才教育に応用するため「子どもの家」を開設し、子供の自発的活動に依拠した独自の教育方法を確立した。

1. ア、イ
2. ア、ウ
3. イ、ウ
4. イ、エ
5. ウ、エ

【No. 62】 我が国における教育制度や教育実践に関する歴史についての記述として最も妥当なのはどれか。

1. 江戸期には、幕藩体制の下、各藩において藩士の育成を目的とした藩校が設置された。武士が指導者としての地位を保持する上で、学問を学び教養を積むことが重視されたことから、藩校では、朱子学を中心とした漢学のほか、兵学、医学、天文学などの実学が教授されたが、剣術等の武芸の指導が行われることはなかった。主な藩校として、会津藩の時習館、米沢藩の日新館が挙げられる。
2. 明治期に、内閣制度の発足とともに初代文部大臣に就任した森有礼は、当時乱立していた「帝国大学令」、「小学校令」、「中学校令」、「師範学校令」を一元化して学校制度全般を規定した「教育令」を公布し、近代学校制度の基礎を形成した。彼は、教育制度のみならず、制度を通して国民に実現する国民道徳の統一的原理も必要であるとして、「教育ニ関スル勅語」の下賜も実現した。
3. 大正期に女子高等教育の普及と発展を目指した羽仁もと子は、我が国最初の女子留学生の一人として明治初期に渡米を経験していた。彼女は、その経験を踏まえ、著書『女子教育』において、一人一人が個性に適した少人数制による全人教育を受けなければならないとし、英語をはじめとした学力を養うことを通して職業をもつ自立した女性を育成する必要があると考え、その実践のために日本女子大学校を創設した。
4. 第二次世界大戦下においては、義務教育の年限が4年から6年に延長され、それまで使用されていた「小学校」という名称が「尋常小学校」に改められた。この時期における修身では、皇国思想や皇国民の義務を教え込むことに重きが置かれ、体操・武道は天皇への献身がその目的として掲げられるなど、皇国民の基礎的錬成をなすことが目指された。
5. 1980年代、政府全体の責任で教育改革に取り組むとの趣旨の下、内閣総理大臣の諮問機関として設置された臨時教育審議会は、その答申において、個性重視の原則、情報化・国際化などの変化への対応等を教育改革の視点として挙げた。これらは平成元年の学習指導要領改訂にも影響を与え、その改訂では、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力などの能力の育成を図るとするいわゆる「新しい学力観」が示された。

【No. 63】 プロジェクト学習(project-based learning)に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. プロジェクト学習は、W. H. キルパトリックが提唱したプロジェクト・メソッドに始まるとされ、学習者が「なすことによって学ぶ(learning by doing)」を軸とする系統主義に基づく学習法である。具体的には「目的を立てる」、「計画を作る」、「実行する」の三つの段階によって構成され、学習者が実践を通して学ぶことを第一とする。
2. プロジェクト学習と理論的背景を同じくする学習方法に問題解決型学習があり、これはあらかじめ設定された課題に、少しずつ進行する段階方式で取り組む「登山型」カリキュラムとも呼ばれる方法である。この方法については、近年の教育現場における ICT 技術の発展に従って、正答のみのステップを重ねて問題解決に至るプロセスが新たに開発されている。
3. プロジェクト学習は、現実の課題に取り組むことを通して、知識の習得にとどまらず、学習のデザインに関する思考、問題解決・意思決定の能力や態度等を育む効果があるとされる。我が国においても小・中・高等学校において実践が積み重ねられており、その内容は地域協働・連携や国際理解をはじめ多岐にわたっている。
4. プロジェクト学習は、大学においてもキャリア教育等として推奨されているが、大学の自律性を確保するため、教育課程内で実施する際には企業と連携した製品開発等を扱う授業科目の開設は認められていない。文部科学省の調査*によれば、学部段階でキャリア教育を教育課程内で実施する大学における令和4年度のプロジェクト学習の実施率は、1割を下回っている。
5. プロジェクト学習の課題としては、学習成果を適切に評価する方法の開発が挙げられ、教師個人の主観に依拠する絶対評価ではなく、集団に準拠した相対評価をベースとした「真正の評価」が目指されている。また、生徒の主体性を重視するため、教師による教材研究や授業計画は必要とされず、地域単位のカリキュラム・マネジメントを推進することが重要であるとされる。

* 「大学における教育内容等の改革状況について(令和4年度)」(令和6年10月)

【No. 64】 シティズンシップ教育に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. シティズンシップ教育は、市民性教育とも呼ばれ、公共社会において平等な権利と義務を担う市民を育てることを目指しており、社会的権利を求めるだけでなく、コミュニティへの参加や対話を通して合意を形成するためのスキルの育成等も含まれるとされている。
2. シティズンシップ教育は、19世紀以降の市民革命によって社会の主権者となった市民階級のための教育に始まる。異文化理解教育やジェンダー教育とは切り離され、国家や社会に対して愛着をもつ市民どうしがこれらとは異なるアプローチを通して一つの規範をもつことを重視している。
3. シティズンシップ教育は、国民主権を基本として、国家単位での問題解決を行う教育を目指している。現代において、グローバル社会の中でより自律的な国民育成が求められていることを背景に、平成30年告示の高等学校学習指導要領では、公民科の中に科目「現代社会」が新設された。
4. シティズンシップ教育の方法には、市民の手本となる徳目を有する人物の物語に共感することを目指す「ロールプレイ」や、学習者が中央集権的で円滑な意思疎通を図る組織づくりを目指す「班・核・討議づくり」が挙げられる。
5. シティズンシップ教育の現代的課題に、同じ言語や価値観をもつ者どうしの連帯を強める機会づくりを通して「地球市民」を育成することが挙げられる。学校におけるシティズンシップ教育は、既存の教科の枠組みの中で、集団を形成してその中でルールを作り守ることを実践する科目を各学校で指定し、当該科目において集中的に展開することが推奨されている。

【No. 65】 教育方法に関する理論についての記述として最も妥当なのはどれか。

1. ジグソー学習とは、E. アロンソンが考案したグループ学習の方式である。価値が葛藤する場面を題材にして、その是非をめぐり、肯定側と否定側に分かれて議論を行って勝敗を決定するものであり、学習者が互いに対抗心をもち、緊張が高まることにより、学業成績が向上することが報告されている。
2. モニトリアル・システム(助教法)とは、A. ベルとJ. ランカスターが開発した教授方法である。指導者が、学習者の中から優秀な者などをモニター(助教)として選抜し、そのモニターに対して授業を実施した後、モニターが指導者の代わりに一般の学習者の指導に当たるというものである。
3. 完全習得学習とは、B. S. ブルームらによって提唱された教授方式であり、オペラント条件づけ理論を基礎としている。学習者がもっている予備知識を把握する形成的評価、学習の過程で習熟度を把握する診断的評価、一定の学習指導が修了した段階で実施する総括的評価という評価の段階を設けていることが特徴である。
4. ブレーン・ストーミングとは、J. S. ブルーナーが考案した集団思考法である。実現可能性などの制約にとらわれず、多くのアイデアを出すことが質の高さに還元されるという考えに基づいており、自由なアイデアを提案することや、率直に他者の意見に対する評価・批判を伝え合うことが重要であるとされている。
5. ソーシャル・スキル・トレーニング(SST)とは、J. D. フィリップスが考案した、対人関係や社会的問題を抱えている人に対して行われる訓練のことであり、行動理論や社会的学習理論に基づいている。ティーチング・マシンを用いて、目標達成までの過程を学習者に細かく示し、スモール・ステップを踏ませることが効果的であるとされている。

No. 66～No. 70 はⅢ部**科目 7. 社会福祉総論**です。

科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 66】 社会保障における一部負担金などの自己負担に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 公的医療保険の療養の給付における一部負担金の負担割合は、65 歳未満の被保険者については療養に要した費用の 3 割、65 歳以上の被保険者については 1 割となっている。このため、例えば、健康保険組合の被保険者であって 40 歳、年収 500 万円の者が保険医療機関に入院し療養の給付を受け、療養に要した費用が 100 万円であった場合、その者は最終的に 30 万円を自己負担しなければならない。
2. 介護保険の居宅介護サービスを受けた場合、被保険者の一部負担金の割合は、被保険者が 40 歳以上 65 歳未満のときは、居宅サービスの区分に応じて厚生労働大臣の定める基準により算定した額の 3 割、65 歳以上のときは 2 割である。施設介護サービスを受けた場合、被保険者の一部負担金の割合は、サービスを受けた期間が 1825 日目までは厚生労働大臣の定める基準により算定した額の 1 割、その翌日から 3650 日目までは 2 割、さらにその翌日以降は 3 割である。
3. 子どものための教育・保育給付として支給される施設型給付費及び地域型保育給付費では、1 号認定子ども及び 2 号認定子どもについては、利用者負担の上限額が零とされている。3 号認定子どもについては、保護者の所得に応じて利用者負担の上限額が定められており、保護者が市町村民税非課税者である場合は零とされている。
4. 障害者自立支援法に基づく自立支援給付の制度では、利用者がサービスを利用したとき、応能負担として、サービスを利用した障害者の家計の負担能力などを考慮して政令で定める額をサービス提供事業者を支払うこととされていた。現在の障害者総合支援法*に基づく自立支援給付の制度では、応益負担として、サービスの利用に要した費用の 1 割を支払うこととされ、施設入所支援を受けた場合の食費、光熱水費等についても、利用者負担の割合は 1 割とされている。
5. 生活保護の被保護者であって、国民健康保険又は後期高齢者医療制度の被保険者である者が療養の給付を受けた場合、その一部負担金に相当する額の金銭給付が医療扶助として行われる。生活保護の被保護者であって、介護保険の被保険者である者が居宅介護サービスや施設介護サービスを利用したとき、その一部負担金に相当する額の介護扶助が行われる。

* 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律

【No. 67】 「2023年 海外情勢報告」(厚生労働省)による諸外国の公的扶助制度等に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 英国において現金給付は、拠出制給付(退職年金等)、所得調査なしの非拠出制給付(障害手当等)及び所得調査付きの所得関連給付(所得補助等)に分類され、このうち所得関連給付が公的扶助に相当する。具体的には、所得調査制求職者給付、児童税額控除、就労税額控除等があるが、これらは多くの場合、2013年からユニバーサルクレジット(普遍的給付制度)として段階的に統合されている。
2. 米国では、自らの収入や資産又は労働によって生計を立てることができず、親族等からの支援を受けていない者に対する公的扶助として、連邦政府による社会扶助がある。社会扶助の内容には、必要不可欠な生計費等を保障する生活扶助に加え、疾病、要介護、特別な社会的困難など様々な生活上の負担に対する支援が提供されている。給付については申請の必要はなく、給付要件を満たしていることが把握され次第支給される。
3. フランスにおいて、我が国の生活保護に相当する社会扶助は、基礎的自治体であるコミューンの責任の下に運営されており、財源はコミューンの一般財源である。対象者は国内に1年以上居住する者で、就労能力のある者には求職活動が要求される。なお、医療は広域自治体であるレギオンによって全ての住民に提供されており、社会扶助に含まれない。
4. スウェーデンの社会扶助制度は、社会保険制度の給付を受けない高齢者、障害者、児童などの救済を目的とする補足的な制度であり、数多くの困窮者救済策が国民連帯の思想に基づき発展してきた。主要な制度としては積極的連帯収入(RSA)及び成人障害者手当(AAH)等があり、財源は国又は県の負担である。
5. ドイツには、我が国の生活保護制度のような連邦政府による包括的な公的扶助制度はない。高齢者、障害者、児童など対象者の属性に応じて各制度が分立している。主要な制度は、貧困家庭一時扶助(TANF)、補足的所得保障、メディケイド、補足的栄養支援、一般扶助の五つである。また、州政府独自の制度も存在している。

【No. 68】 貧困に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 19世紀末に英国の地方都市ヨーク市で貧困調査を行ったC. ブースは、貧困を「階級」の問題として捉える方法を提示し、所得や職業的地位のほか、見苦しくない生活を送れているかどうかといった社会・文化的要素等を考慮しながら、労働者をA、B、Cの三つの階級に区分した。
2. B. エイベルスミスとP. タウンゼントは、『貧困者と極貧者』において、「肉体的能率」を維持するために最低限必要なものさえ得られない状態を「第一次貧困」と定義した。第一次貧困線の算定に用いられた計算方法は後にエンゲル方式とも呼ばれ、我が国の生活保護における保護基準の算定にも一時期用いられていた。
3. B. S. ラウントリーは、貧困調査の結果から、一般的な労働者の生涯にわたる生活は「困窮」と「比較的余裕のある生活」との交替によって、五つの異なる生活様相に直面するとし、少年期、結婚後子供が稼ぎ始めるまでの時期及び老年期に貧困を経験する共通の傾向があることを見いだした。
4. 貧困は、人々の生活における欠乏を意味しており、どのような欠乏、どの程度の欠乏を貧困と呼ぶかは、時と場所を問わず一定である。P. オルコックによれば、貧困は一つの「状態」であり、記述的に描き出すことができるのに対して、不平等は「状態」ではなく、価値判断と結び付いた規範的な概念である。
5. 現在の我が国の生活保護制度における生活扶助基準の設定方法としては、消費水準の階層別格差縮小の傾向がみられることに対応して、低所得世帯と被保護世帯の生活水準の格差を縮小する観点から生活扶助基準の改定率を決定する「格差縮小方式」が採用されている。

【No. 69】 我が国の社会保障の財源に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 生活保護は公的扶助制度であり、その財源は公費である。現在の生活保護法が制定された当初は、国家責任による最低生活保障の原理に基づき、保護費は全額、国が負担していた。その後、生活保護の濫給や国の財政状況の悪化を背景に、平成 25 年には、保護費のほか、福祉事務所の人件費や行政事務費も含め、国が 3 分の 2、保護を実施する地方公共団体が 3 分の 1 を負担することとされた。
2. 令和 6 年 10 月以降の児童手当の財源は、公務員以外の被用者及び非被用者については、原則として、国が 3 分の 2、地方公共団体が 3 分の 1 を負担する。ただし、公務員以外の被用者であって義務教育就学前の子供に対する児童手当と特例給付については、「子ども手当」との名称が付され、事業主が 3 分の 1、国が 3 分の 1、地方公共団体が 3 分の 1 を負担する。
3. 後期高齢者医療制度の財源の内訳は、公費約 5 割、後期高齢者である被保険者の保険料約 1 割、後期高齢者支援金約 4 割である。公費は、国、都道府県、市町村が、定められた割合で負担する。後期高齢者支援金は、健康保険、国民健康保険などの保険者がその被保険者から徴収する保険料によって賄われる。
4. 障害者総合支援法*の自立支援給付の財源の内訳は、公費約 5 割、障害者が負担する保険料約 1 割、介護保険からの拠出金約 4 割である。公費は、国、都道府県、市町村が、定められた割合で負担する。介護保険からの拠出金の負担は、介護保険の保険者ごとにその被保険者に占める障害者の割合に応じて、各保険者に案分される。
5. 所得税、法人税、消費税、固定資産税などの国税は、国の一般会計の歳入となる。年金の保険料や全国健康保険協会管掌健康保険の保険料などは、一旦年金特別会計の収入となり、その後、国の一般会計に繰り入れられる。令和 5 年度の一般会計歳入総額は、約 40 兆円であり、所得税、法人税、消費税からの収入が約 9 割、公債金からの収入が約 1 割を占める。

* 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律

【No. 70】 社会福祉の思想と理論に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 1976年に採択された世界人権宣言は、第25条において「すべて人は、衣食住、就労及び必要な社会的施設等により、自己及び家族の健康及び福祉に十分な生活水準を保持する権利並びに失業、疾病、心身障害、配偶者の死亡、孤独その他不可抗力による生活不能の場合は、矯正を受ける権利を有する。」と規定している。
2. ノーマライゼーションの考え方は、第一次世界大戦後の北米における貧困についての体験や検討の中から生み出されてきたものである。ミュルダール夫妻によると、その目的は社会的支援を必要としている人々をいわゆるノーマルな人にするのではなく、その障害を共に受容することであり、彼らにノーマルな生活条件を提供することである。
3. ナショナル・ミニマムとは、ウェッブ夫妻が『失業論』の中で全国民のための最低限度の生活水準の意味で用いた言葉であり、第二次世界大戦後の新しい状況の中で、W. H. ベヴァリッジによって、地方自治と市民参加の意義を明確にしたシビル・ミニマムの概念へと発展した。
4. 三浦文夫は、資本主義制度を貫徹する「社会＝経済法則」の作用の結果として生まれる構造的必然の所産を「社会的諸問題」とし、さらにそれを社会の基礎的・本質的課題である個人的問題と、社会における関係的・派生的課題である社会的問題に分類した。そして、後者に対応する「社会政策」は、「社会事業」の補足的施策として存在するとした。
5. 岡村重夫は、社会福祉固有の立場について、人間の社会生活の基本的要求が全体として調和的に充足されることをねらいとすること、全ての個人が社会的役割を効果的に果たし得るように援助することが基本的機能であること、また、地域社会や集団に対しても、個人の社会的役割を容易にするような制度的変更を加えるように援助することも含むことなどを論じた。

No. 71～No. 75 はⅢ部**科目 8. 社会福祉各論**です。

科目 1～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 71】 幼保連携型認定こども園に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 幼保連携型認定こども園は、幼稚園的機能と保育所的機能の両方の機能を併せもつため、平成9年の児童福祉法改正により、学校及び児童福祉施設としての法的な位置付けをもつ単一の施設として規定されたが、令和5年のこども家庭庁の設置による管轄の変更により、学校及び児童福祉施設としての位置付けを失った。
2. 幼保連携型認定こども園で教育及び保育の業務を行うのは、子育て支援員に限られる。子育て支援員は、幼稚園教諭の普通免許状をもつ者が幼保連携型認定こども園に雇用されることで任用される。保育士資格をもつ者が幼保連携型認定こども園で教育及び保育の業務を行うためには、別に指定された子育て支援員任用のための講習を受講する必要がある。
3. 幼保連携型認定こども園を利用する小学校就学前の子どもを養育する保護者は、保育料について地域型保育給付を受けることができる。当該給付の支給要件として、保護者の労働又は疾病その他の事由により家庭において必要な保育を受けることが困難である満3歳以上の就学前の子どもがいることと子ども・子育て支援法に規定されている。なお、満3歳未満の子どもは対象になっていない。
4. 幼保連携型認定こども園の経営は、社会福祉法において第二種社会福祉事業と規定されている。幼保連携型認定こども園は、国、地方公共団体、学校法人及び社会福祉法人のみが設置することができる。幼保連携型認定こども園の数は増加傾向にあり、令和6年4月1日現在全国に7千か所以上が設置されている。
5. 幼保連携型認定こども園における3歳未満の子どもの教育課程その他の教育及び保育の内容については保育所保育指針に、3歳以上の子どもの教育課程その他の教育及び保育の内容については幼稚園教育要領に記されており、保育所保育指針と幼稚園教育要領を年齢別に使用している。また、保育所保育指針と幼稚園教育要領は5年ごとに同時期に改訂されている。

【No. 72】 認知症と認知症の人に対する支援施策に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 認知症の中で最も多いのは脳血管疾患を原因とする血管性認知症である。脳血管疾患に伴ってアミロイドβが脳内に沈着するのが原因とされており、典型的な症状として幻視や情動失禁などが生じ、前頭葉の障害による反社会的行動も現れることが多い。
2. 認知症対応型共同生活介護は、介護保険法における施設サービスの一つである。これは、個室と共同生活室から成る共同生活住居(ユニット)を置き、その1ユニットの定員を29名以下とし、少ない人数での家庭的な環境の中で介護を行うものである。
3. 認知症初期集中支援チームは医療法に基づいて組織され、認知症疾患医療センターへの設置が義務付けられている。これは、認知症サポーターや民生委員などが認知症専門医をはじめとする医療・介護専門職とチームを組んで認知症の人の自宅などを訪問し、認知症初期の支援を行うものである。
4. 認知症施策推進大綱は、厚生労働省認知症施策検討プロジェクトチームによって取りまとめられた。基本的考え方として、認知症は誰もがなり得るものであり、「地域包括ケアシステムの構築」と「認知症治療薬の研究開発」を車の両輪として施策を推進することが示された。
5. 共生社会の実現を推進するための認知症基本法は、認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会の実現を推進することを目的としている。同法において、政府に認知症施策推進基本計画の策定義務を課す規定が置かれた。

【No. 73】 我が国のホームレスの実態と支援に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 我が国におけるホームレス自立支援施策は、第二次世界大戦の終戦直後に成立した生活困窮者自立支援法に基づいて実施されてきたが、平成 14 年にホームレスを対象に包括的な支援を実施するものとして、ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法が制定されたことに伴い、生活困窮者自立支援法は廃止された。
2. 令和 3 年の「ホームレスの実態に関する全国調査(生活実態調査)」(厚生労働省)の結果によると、ホームレスの福祉制度の利用状況については、巡回相談員に相談をしたことがある者は 80 % を超えている。また、緊急的な一時宿泊場所である生活困窮者一時宿泊施設や一時生活支援を利用したことがある者は 70 % を超えている。
3. 令和 3 年の「ホームレスの実態に関する全国調査(生活実態調査)」(厚生労働省)の結果によると、70 歳以上のホームレスが全体の 60 % を超え、また、路上生活期間が 10 年以上になる者が全体の約 40 % であった。調査時における路上生活期間が 3 年未満の者のうち、路上生活を行うようになった理由が新型コロナウイルスの感染拡大の影響によるものと答えた者は約 30 % であった。
4. 厚生労働省・国土交通省告示「ホームレスの自立の支援等に関する基本方針を策定する件」(令和 5 年 7 月 31 日)では、ホームレスに対する生活保護の適用については、一般の者と同様であり、単にホームレスであることをもって当然に保護の対象となるものではなく、また、居住の場所がないことや稼働能力があることのみをもって保護の要件に欠けるといえることはないとされている。
5. ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法は、稼働能力の喪失によって住居を失った者に対し、生活保護法に定める第一種社会福祉事業である無料低額宿泊所の利用料を支給する住居確保給付金について規定している。ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法において住居確保給付金の支給期間は 1 か月を限度とするとされている。

【No. 74】 我が国の公的年金制度に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 我が国の公的年金制度は、民間企業の被用者とその被扶養配偶者を被保険者とする厚生年金、公務員とその被扶養配偶者を被保険者とする共済年金、被用者以外の自営業者などを被保険者とする国民年金に分立している。厚生年金の保険者は日本年金機構、共済年金の保険者は国であり、国民年金の保険者は都道府県である。
2. 国民年金第1号被保険者の保険料は市町村民税の課税状況に基づく所得段階に応じた一定の額が定められている。国民年金第2号被保険者の保険料は報酬比例部分と定額部分から構成されており、報酬比例部分は厚生年金の財源となり、定額部分は基礎年金の財源となる。国民年金第3号被保険者の保険料は、国民年金第2号被保険者の定額部分の額と同額である。
3. 老齢基礎年金の年金額は、満額の老齢基礎年金額 × 保険料納付済月数 ÷ 420 か月の式により計算され、国民年金への加入義務のある20歳以上55歳未満の間の合計35年間保険料を納めた場合は、満額の老齢基礎年金額となる。老齢基礎年金の支給開始年齢は原則として60歳であるが、繰り上げて55歳から受給することもできる。
4. 公的年金制度は長期的な制度であるため、社会・経済の変化を踏まえ、適切な年金数理に基づいて、長期的な年金財政の健全性を定期的に検証することが公的年金の財政運営にとって不可欠である。このため、少なくとも5年ごとに、国民年金及び厚生年金の財政の現況及び見通しを作成する財政検証が実施されている。
5. 厚生年金の保険料額は、標準報酬月額に保険料率を乗じて得た額である。標準報酬月額は、健康保険では第1級の8万8,000円から第32級の65万円まで設定されているのに対し、厚生年金では第1級の5万8,000円から第50級の139万円まで設定されている。賞与は、厚生年金においても健康保険においても、保険料の賦課対象になっていない。

【No. 75】 児童発達支援センターの説明として最も妥当なのはどれか。

1. 義務教育を終了した児童又は児童以外の満 20 歳に満たない者及び満 20 歳以上の児童養護施設等の措置解除者等のうちやむを得ない事情により継続的に施設を利用することが必要であると都道府県知事が認めたものに対し、共同生活を営むべき住居等における相談その他の日常生活上の援助及び生活指導並びに就業の支援を行う施設である。
2. 地域の障害児の健全な発達において中核的な役割を担う機関として、障害児を日々保護者の下から通わせて、高度の専門的な知識及び技術を必要とする児童発達支援を提供し、あわせて障害児の家族、指定障害児通所支援事業者その他の関係者に対し、相談、専門的な助言その他の必要な援助を行うことを目的とする施設である。
3. 家庭環境、学校における交友関係その他の環境上の理由により社会生活への適応が困難となった児童を、短期間、入所させ、又は保護者の下から通わせて、社会生活に適応するために必要な心理に関する治療及び生活指導を主として行い、あわせて退所した者について相談その他の援助を行うことを目的とする施設である。
4. 不良行為をなし、又はなすおそれのある児童及び家庭環境その他の環境上の理由により生活指導等を要する児童を入所させ、又は保護者の下から通わせて、個々の児童の状況に応じて必要な指導を行い、その自立を支援し、あわせて退所した者について相談その他の援助を行うことを目的とする施設である。
5. 地域の児童の福祉に関する各般の問題につき、児童に関する家庭その他からの相談のうち、専門的な知識及び技術を必要とするものに応じ、必要な助言を行うとともに、市町村の求めに応じ、技術的助言その他必要な援助を行い、あわせて児童相談所、児童福祉施設等との連絡調整その他の援助を総合的に行うことを目的とする施設である。

No. 76～No. 80 はⅢ部**科目 9. 福祉計画論**です。

科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 76】 福祉の供給の仕組みや主体に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 準市場とは、1940 年代に W. H. ベヴァリッジが提示した理論的枠組みである。準市場は、市場における競争や選択という要素を排除して、人々の購買力の違いから生じる不平等を回避するような形で、公共サービスを提供する仕組みである。準市場的な制度の例として、我が国の介護保険制度が挙げられる。
2. 第二次世界大戦後の我が国の社会福祉制度改革の下で 1951 年に制定された社会福祉事業法は、地域住民、社会福祉を目的とする事業を営む者及び福祉サービスを必要とする者とその家族が、相互に協力して「地域福祉の推進」に努めなければならない旨を規定している。
3. 我が国において 1990 年代後半から進められた「社会福祉基礎構造改革」は、福祉サービスの供給形態について、それ以前に主流であった「契約制度」から、「措置制度」への転換を図ったものである。「措置制度」の下では行政が直接にサービスを提供するため、サービスの利用者と提供者の間の対等な関係が成立する。
4. 福祉サービスの提供の担い手として、公的部門、民間営利部門、インフォーマル部門、ボランティア部門などがそれぞれの特徴をいかして活動するという考え方を福祉多元主義という。現在、福祉多元主義は福祉サービス供給の基本的な枠組みとなっている。
5. R. M. ティトマスは、福祉の社会的分業という考え方を提唱し、社会保障や社会福祉と類似の目的や機能をもつ「企業福祉」と「家族福祉」が存在すると指摘した。企業福祉とは、雇われて働く労働者に対して企業から支払われる賃金を指しており、一般的には福利厚生と呼ばれる。

【No. 77】 我が国の社会福祉法人制度に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 社会福祉法人は、戦後に改正された民法によって法定化され、社会福祉事業を行うことを目的として創設された。この社会福祉法人制度が必要となった背景の一つには、民間社会福祉事業に対し、公金や公の財産からの助成・補助を行うことは日本国憲法第13条に違反するとの立場から、公の支配に属する特別な法人の創設が必要と考えられたことがある。
2. 社会福祉法人を設立しようとする場合には、厚生労働省令で定める手続に基づき、所轄庁の指定を受ける必要がある。社会福祉法人が行う社会福祉事業は第一種社会福祉事業と第二種社会福祉事業に大別することができるが、両者の間には行政による監督規制の厳格さの水準の違いがあるにとどまり、いずれも、その他の非営利法人や民間営利法人は運営できないことが規定されている。
3. 社会福祉法人は、機関として評議員、評議員会、理事、理事会、監事を置くことが義務付けられ、理事会が法人運営の基本ルール・体制の決定などに関する議決機関とされるとともに、評議員会が法人の業務執行機関と位置付けられている。また、法人運営の公益性を担保するため、理事に親族等特殊関係者を選任する場合は一定の制限の中で選任をすることが求められている。
4. 社会福祉法人の事業運営の結果、事業活動収支差額として利益が出た場合には、一定の範囲内で配当が認められている。また、利益のうち余裕財産であると認められるものは社会福祉充実残額として扱い、その一定の金額は、原則として10年以内に地域における公益的な取組のために用いなければならないことが規定されている。
5. 社会福祉連携推進法人制度は、複数の社会福祉法人等により、地域福祉支援業務や人材等確保業務、物資等供給業務などを連携・協働して行う一般社団法人を認定する仕組みである。この法人の社員には社会福祉法人だけでなく、社会福祉を目的とする事業を経営する特定非営利活動法人なども加わることができる。

【No. 78】 厚生労働省の通知「[都道府県社会的養育推進計画]の策定について」(平成 30 年 7 月)において示された都道府県社会的養育推進計画の説明として最も妥当なのはどれか。

1. 子どもの権利擁護、市町村の体制整備、里親等委託の推進、特別養子縁組の推進、施設の小規模かつ地域分散化、高機能化及び多機能化・機能転換などといった各般の取組を、数値目標等とともに具体的に盛り込むものである。
2. 次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、かつ、育成される社会の形成に資することを目的に、次世代育成支援対策に関し、都道府県、事業主及び保護者の責務を明らかにするとともに、次世代育成支援対策を推進するために必要な事項について具体的な数値目標を定めている。
3. 我が国における急速な少子化の進行並びに家庭及び地域を取り巻く環境の変化に鑑み、子ども・子育て支援給付、子ども及び子どもを養育している者に必要な支援等に関して具体的な数値目標を定めている。
4. 児童に対する虐待の禁止、児童虐待の予防及び早期発見、児童虐待の防止に関する都道府県の責務について定め、児童虐待を受けた児童の保護及び自立の支援のための措置等に関して具体的な数値目標を掲げている。
5. 女性が安心して、かつ、自立して暮らせる社会の実現に寄与することを目的とし、困難な問題を抱える女性の福祉の増進を図るため、支援に関する基本的な方針について定め、都道府県の実施内容に関する事項、施策の実施に関する重要事項について具体的な数値目標を掲げている。

【No. 79】 我が国における障害者施策やバリアフリーに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 1982年、国連で「障害者に関する世界行動計画」が採択され、これを我が国において実現するものとして、同年に障害者基本法の改正が行われた。その改正の主な内容は、障害福祉計画の策定を厚生大臣に努力義務として課すことであり、現在は第5次計画の期間中である。同計画においては、様々な心身の特性や考え方をもつ全ての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションを取り、支え合う「心のバリアフリー」の理解促進を図ることが掲げられている。
2. 身体障害者補助犬法は、補助犬の育成及び補助犬使用者の施設等の利用の円滑化を図り、身体障害者の自立及び社会参加の促進に寄与することを目的としている。同法において、身体障害者補助犬とは盲導犬及び介助犬の二種と定義されている。また、国等の事業所又は事務所並びに民間事業所の事業主は、その規模にかかわらず、勤務する身体障害者の補助犬の使用を拒んではならないと規定されており、これに違反した場合の罰則規定も設けられている。
3. バリアフリー法^{*1}は、その基本理念として、同法に基づく措置が社会的障壁の除去及び共生社会の実現に資することを旨として行われなければならない旨規定している。同法において、公共交通事業者等は、新設旅客施設等を公共交通移動等円滑化基準に適合させ、また同基準に適合するように維持するとともに、当該新設旅客施設等を使用した役務の提供の方法に関する基準（ソフト基準）を遵守しなければならないとされている。
4. 障害者差別解消法^{*2}は、行政機関等及び事業者に対して、事業等を行うに当たって障害者の権利利益を侵害することとならないための必要かつ合理的な配慮を義務付けている。これは、行政機関等や事業者において社会的障壁の除去が必要であると判断した場合に、その実施に伴う負担の軽重にかかわらず直ちに行うことを義務付けているものであり、その内容は障害の種類ごとに一般的に求められる取組とされている。
5. 障害者雇用促進法^{*3}は、雇用分野における事業主の障害者に対する合理的配慮の提供について定めており、その対象は、身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の所有者であって、長期にわたり、職業生活に相当の制限を受け、又は職業生活を営むことが著しく困難なものと規定されている。ここでいう合理的配慮は、障害者と障害者の間での均等な機会や待遇の確保に当たり支障となっている事情を改善するために必要な措置を指すとされている。

*1 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律

*2 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律

*3 障害者の雇用の促進等に関する法律

【No. 80】 我が国の社会福祉の行政計画に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 平成7年に策定された「障害者プラン—ノーマライゼーション7か年戦略—」では、その基本的考え方として、医療モデルの理念を踏まえつつ、七つの視点から施策の重点的な推進を図るとし、①援助者主体、②健康管理をする側の責任、③規則正しい生活への援助、④疾患・症状を中心にした捉え方、⑤治療・援助関係、⑥個人の病理・問題性に重点、⑦教育的・訓練的取組を挙げた。
2. 合計特殊出生率のいわゆる「1.57ショック」を契機に政府は少子化対策の検討を始め、平成元年に最初の総合的な少子化対策である「子ども・子育て応援プラン(ゴールドプラン)」が関係省庁大臣の合意により策定された。このプランは3か年計画であり、子育て支援サービス整備の目標値が示された。
3. 平成2年の福祉八法改正により老人福祉法と老人保健法が改正され、市町村及び都道府県に老人福祉計画・老人保健計画の策定が義務付けられた。その後、平成9年に成立した介護保険法により、市町村において介護保険事業計画の策定が、都道府県において介護保険事業支援計画の策定が義務付けられた。
4. 地域福祉活動計画は、当初は各地方公共団体がそれぞれ当該地方公共団体の福祉政策を計画化するために策定していたところ、地方公共団体ごとの福祉サービスの供給に差が生じたことから、平成12年制定の社会福祉法において、国が全国一律の地域福祉活動計画を策定することが規定され、トップダウン型の計画として法定化された。
5. 平成28年に改正された児童福祉法において、都道府県は5年を1期とする次世代育成支援のための地域における行動計画を策定しなければならないと定められている。また、国及び地方公共団体以外の一般事業主であって1,000人以上の従業員を抱えるものは、一般事業主行動計画を策定することができることとされている。

No. 81～No. 85 はⅢ部**科目 10. 地域福祉論**です。

科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 81】 こども家庭センターに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. こども家庭センターは、乳児院と児童家庭支援センターの設立の意義や機能を維持した上で組織を見直し、全ての妊産婦、子育て世帯、こどもへ一体的に相談支援を行う機能を有する機関として設置された。
2. こども家庭センターの業務は、児童及び妊産婦の福祉や母子保健の相談等への対応、実情の把握・情報提供、必要な調査・指導、支援を要するこども・妊産婦等へのサポートプランの作成、連絡調整、保健指導等とされている。
3. こども家庭センターは、要保護児童対策地域協議会の調整機関としての役割を担うとともに、里親支援事業を行うほか、里親及び里親に養育される児童並びに里親になろうとする者について相談その他の援助を行うこととされている。
4. こども家庭センターは、こども家庭庁が所管する第二種社会福祉事業の児童福祉施設である。子育て家庭にとって身近な子育てに関する相談、支援の場として、市区町村に設置が義務付けられている。
5. こども家庭センターには、令和6年度から導入された国の認定資格である「こども家庭ソーシャルワーカー」の配置が義務付けられている。この資格取得のためには幼稚園教諭の普通免許状を有することが必須であり、幼稚園教諭が所定の研修を修了することにより取得できる。

【No. 82】 我が国の介護保険制度に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 保険給付の種類として、介護給付、予防給付、市町村特別給付の三つが介護保険法で規定されている。介護給付は被保険者の要介護状態に、予防給付は被保険者の要支援状態に関する保険給付であり、市町村特別給付は要介護被保険者や居宅要支援被保険者を対象とし、要介護状態等の軽減又は悪化の防止に資するものとして市町村が条例で定める保険給付である。
2. 訪問介護は、要介護者の居宅において入浴、排せつ、食事等の介護が行われるものであり、調理、洗濯、掃除等の家事は保険給付適用外となっている。また、訪問入浴介護は、要介護者の居宅を訪問して車両等により要介護者を送迎し、老人デイサービスセンター等の入浴装置を用いて入浴の介護を行うものである。
3. 小規模多機能型居宅介護は、そのサービス拠点に通わせる、又は短期間宿泊させることにより、入浴、排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の世話や機能訓練を行うものである。また、看護小規模多機能型居宅介護は、小規模多機能型居宅介護の拠点でのサービスに看護師による診療の補助及び日常生活上の世話を加えたものである。
4. 居宅サービスや地域密着型サービスの保険給付については、要介護及び要支援の二段階の支給限度基準額が定められている。要介護者・要支援者が支給限度基準額を超えて保険給付を利用できるのは、生活保護受給者の場合に限られる。
5. 保険給付における介護報酬は、厚生労働大臣が介護保険審査会の意見を聴いて定めることとなっている。また、介護報酬は1単位の単価を10円として、事業所・施設が所在する地域にかかわらず全国一律に定められている。

【No. 83】 社会保障制度の運営主体や実施主体に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 市町村は、社会保険では、健康保険の保険者及び介護保険の保険者となる。障害者施策では、障害者総合支援法*に基づく自立支援給付の支給を担当する。児童福祉では、子どものための教育・保育給付を担当するほか、保育所や認定こども園の認可を行う。また、市町村には年金事務所を設置することが義務付けられている。
2. 都道府県は、医療保険では、国民健康保険の保険者及び後期高齢者医療制度の保険者となる。また、介護保険では、居宅サービス、施設サービス及び地域密着型サービスを行う事業者や施設の指定を担当する。児童福祉では、子どものための教育・保育給付に係る施設や事業所の必要利用定員総数などの事項を盛り込んだ子ども・子育て支援事業計画を定める。
3. 家庭裁判所は、子どもが虐待を受けた場合、虐待を行った親の親権喪失や親権停止をすることができる。児童福祉法に基づく一時保護は、家庭裁判所の審判により決定される。また、家庭裁判所は、介護保険法に基づき、弁護士などに対する専門職後見人としての事業者指定、指定を受けた弁護士などに横領などの不正行為があった場合の指定の取消しや懲戒を担当する。
4. 事業主は、健康保険では、原則として事業主負担分として保険料の2分の1を負担するが、健康保険組合は、規約により事業主負担割合を増やすことができる。介護保険では、第2号被保険者の保険料の2分の1を負担する。労働者災害補償保険では、その保険料の全額を負担する。雇用保険では、保険料のうち失業等給付に充てる部分の2分の1と雇用保険2事業に充てる部分を負担する。
5. 国は、日本国憲法第25条第2項に基づき、すべての生活部面について、社会保障や公衆衛生などの向上及び増進に努めなければならないとされており、最高裁判所は、同項の規定は裁判上請求できる具体的権利を国民に与えた旨判示している。また、日本国憲法第83条は、社会保障関係費を含めた国の財政を処理する権限は、内閣の決定に基づいて、これを行使する旨定めている。

* 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律

【No. 84】 我が国における権利擁護に関する制度についての記述として最も妥当なのはどれか。

1. 国民の福祉ニーズの増大・多様化を踏まえ、利用者が事業者と対等な関係に基づきサービスを選択する利用制度が推進されるようになったことを背景に、昭和 26 年に制定された社会福祉事業法において、判断能力の不十分な利用者に対して福祉サービスの利用援助等を行う日常生活自立支援事業が創設された。同事業は契約に基づく福祉サービスを対象としているため、行政手続に関する援助は対象外とされている。
2. 社会福祉法において、社会福祉事業の経営者は、常に、その提供する福祉サービスについて、利用者等からの苦情の適切な解決に努めなければならないと定められている。経営者と利用者との間で苦情が解決されなかった場合は、経営者は苦情解決責任者として運営適正化委員会を設置しなければならないと定められ、都道府県社会福祉協議会が任命する第三者委員による指導を受けることとされている。
3. 社会福祉法において、社会福祉事業の経営者は、自らその提供する福祉サービスの質の評価を行うことその他の措置を講ずることにより、常に福祉サービスを受ける者の立場に立って良質かつ適切な福祉サービスを提供するよう努めなければならないと定められている。厚生労働省は、社会福祉事業の経営者は、福祉サービス第三者評価を積極的に受審することが望ましいとしている。
4. 障害者差別解消法*において、差別を解消するための取組を効果的かつ円滑に行うことを目的として、地方裁判所は障害者差別解消支援地域協議会を組織しなければならないと定められている。障害者差別解消支援地域協議会は、障害者に対して不当な差別的取扱いをした事業者に対し、指導や勧告を行う権限を有するとされている。
5. 生活保護法において、被保護者は、いかなる理由があっても、既に決定された保護を、不利益に変更されることがないと定められている。保護の実施機関が行った保護の決定及び実施に関する処分不服がある場合には、市町村長に対して審査請求を行い、市町村長の裁決に不服がある場合には、都道府県知事に対して再審査請求を行うことができるとされている。

* 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律

【No. 85】 我が国における障害者の地域移行や地域定着の支援に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 障害者総合支援法^{*1}において、地域移行支援とは、障害者支援施設や精神科病院等に入所・入院している精神障害者等のうち、移動に著しい困難を有するものにつき、外出時、当該障害者等と同行し、移動に必要な情報の提供や移動の援護等の便宜の供与を行うことをいうとされている。地域移行支援の対象について、更生保護施設入所者は含まれるが、矯正施設(刑事施設や少年院)に入所・入院している者は、移動等が直ちに見込まれないため含まれない。
2. 障害者総合支援法において、地域定着支援とは、居宅において単身等で生活する障害者につき、当該障害者と常時の連絡体制を確保し、障害の特性に起因して生じた緊急事態等の場合に、相談等の便宜を供与することをいうとされている。地域定着支援の対象は、身体障害者とされており、同支援において中核的な役割を担う機関として、都道府県は地域生活定着支援センターを設置している。
3. 地域移行支援に係る地域相談支援給付決定の有効期間は、原則として2年間であるが、必要に応じて更新が可能とされている。これに対し、地域定着支援に係る地域相談支援給付決定の有効期間は、緊急時の対応等が想定されているため6か月間であり、この期間を超えて利用することはできないと障害者総合支援法において定められている。
4. 厚生労働大臣が策定する障害福祉計画において、地域移行支援と地域定着支援のそれぞれについて、利用者数の見込みを設定することとされているが、令和2年度についてみると、全国値で地域定着支援では実績が見込みを上回ったのに対し、地域移行支援では実績が見込みを下回った。これを受け、令和4年の障害者総合支援法の改正により、都道府県に地域移行推進員の配置を義務付ける旨が規定された。
5. 精神保健福祉法^{*2}において、医療保護入院者の退院による地域における生活への移行を促進するための措置が規定されており、同法の改正(令和6年4月施行)により、措置入院者についても同様の措置が規定された。精神科病院又は指定病院の管理者は、退院後生活環境相談員を精神保健福祉士等から選任し、その者に措置入院者及び医療保護入院者の退院後の生活環境に関し、本人及びその家族等からの相談に応じさせるなどの援助を行わせなければならないとされている。

*1 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律

*2 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律

No. 86～No. 90 はⅢ部**科目 11. 社会学(理論)**です。

科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 86】 近代(モダニティ)に関する学説についての記述ア～エのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

ア. M. ヴェーバーは、ある社会の特性をパターン変数(型の変数)によって捉えられるとし、西洋近代社会は、感情中立性に対する感情性、集団志向に対する自己志向、個別主義に対する普遍主義、業績本位に対する属性本位、無限定性に対する限定性によって特徴付けられる社会とみなし、中でも西洋近代の母体となった宗教としてのプロテスタンティズム教団の合理性を普遍主義と属性本位に求めた。

イ. V. パレートは、共有されたシンボル体系が人間行動の社会的進化の分析にとって重要な役割を果たすという見方に立ち、近代化という社会進化の過程は、(1)価値の一般化、(2)包摂、(3)適応能力の上昇、(4)分化という四つのプロセスを経由する中で、信念と力をもったエリートが知的柔軟性と革新性をもった指導者に不可逆的に進化することによって実現すると考えた。

ウ. A. ギデンズは、ポストモダニティの社会理論が、モダニティの徹底化によってモダニティの解体がもたらされると主張するのに対し、モダニティの徹底化はむしろモダニティの特質を純化するという立場から、ハイ・モダニティ論を展開し、モダニティの特徴を時間と空間の分離、脱埋め込み化(伝統から意識や制度の離脱)、リフレクシヴィティ(意味の問い直し)の増大に求めた。

エ. M. フーコーは、「精神の病」にみられるような正常と病理の区別が、近代以前にも存在する普遍的な概念であることを歴史資料に基づいて明らかにする一方、思想的にはJ. P. サルトルの実存主義の立場からレヴィ＝ストロースの構造人類学を批判し、伝統的な共同体規範に代わる近代的主体とヒューマニズムへの信仰によって更なる近代化を推し進めるべきであると主張した。

1. ア
2. ウ
3. ア、イ
4. イ、エ
5. ウ、エ

【No. 87】 A. シュッツの理論に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- ア. M. モースの理解社会学を理論的に発展させるために、現象学の方法を社会学に適用した。モースが、社会的行為を、行為者が付与する客観的意味に着目して理解し説明することが社会学であると定義したところ、A. シュッツは、このようなモースの行為や意味といった基礎概念を、主として現象学の方法を援用しながら厳密化することを試みた。
- イ. T. パーソنزの理論における「主観的現象」の扱いについて批判した。パーソنزが、行為者の動機という主観的現象を、規範的価値という観察者による客観的な解釈図式で説明したのに対し、A. シュッツは、規範的価値もまた主観的観点と関係しており、行為者の動機を観察者の観点からではなく行為者自身の観点から明らかにしていくことの重要性を主張した。
- ウ. 社会の中で生活している行為者が経験している世界を「多元的現実」と捉えて考察した。行為者が日常生活世界で経験している現実とは、唯一の現実というわけではなく、夢の世界、空想の世界、宗教的体験の世界、科学的思考の世界などの限定的な意味領域があり、それらに現実のアクセントが付与されることによって、現実として経験されるとした。
- エ. 社会学者が常識的な概念を用いて二次的に現実を再構成する以前に、行為者が日常生活世界において、科学的な概念を用いて一次的に構成している現実を、行為者自身の視点から記述しようとした。こうした「現象学的社会学」の観点は、世界観の全体をその人が拠って立つ集団との関連で捉える K. マンハイムの「想像の共同体」の概念に引き継がれていった。

1. ア、イ
2. ア、ウ
3. イ、ウ
4. イ、エ
5. ウ、エ

【No. 88】 R. K. マートンの学説に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 包括的な一般理論の構築を目指す立場から、社会システムの分析は、数学における連立方程式で表現するのが望ましいと考えた。その暫定的な方法として、社会システムを構成する諸要素のうち、不変的かつ安定的な要素である「機能」の分析に着手し、次いで、機能の作用を活性化するメカニズムとしての「構造」の分析を行うという構造＝機能分析を提唱した。
2. 機能主義における予言の自己成就とは、ユダヤ＝キリスト教における預言者が、世界を呪術から解放することを目指す脱呪術化を自らが推進するために、民衆を神からの預言に従わせることを意味するとした。その上で、世界宗教を比較することにより、西ヨーロッパにおける科学技術の発達や資本主義経済の成立の一因は、呪術を排し、生活様式の合理化をもたらすこうした合理的預言者の活動にあると結論付けた。
3. 行為者によって事前に認知されていない結果(意図されていない結果)をもたらす働きを潜在的機能とし、行為の結果が意図されたものである場合の働きである顕在的機能と区別した。社会学においては特に前者の潜在的機能に注目することを提案し、その具体例として、ホピ族の雨乞いの儀式において、当事者の意図しない集団の連帯が可能になることを挙げた。
4. 社会や個人に対して有害な影響を与える行為や、社会的規範に抵触する行為を直ちに逸脱とみなしてきたこれまでの研究方法に対し、スティグマ論の観点から逸脱が状況や相互行為の中で社会的に構築される過程に注目した。そして、米国の下層社会において、社会的に掲げられた「文化的目標」と「制度的手段」の双方を承認する同調という適応様式が、逸脱行動を起こしやすいことを指摘した。
5. 昇進の早い航空隊の方が、遅い憲兵隊よりも昇進に関する不満が大きいという米兵に関する先行研究に対し、このような事態を「疎外された労働」と呼んだ。このような事態が生じる理由として、航空隊では自分と同等の教育歴で下士官にとどまる者の割合が低く、逆に憲兵隊では高いという事実に基づき、評価基準となる準拠集団と実際の所属集団が一致する場合に生じる、先を見越した社会化(予期的社会化)を挙げた。

【No. 89】 公共に関する学説についての記述として最も妥当なのはどれか。

1. 公共とは、国家に関係する公的なものという意味であり、公共性とは国家が法や政策などを通じて国民に対して行う活動を指す。例えば、市場において個人が私権や私利・私益を追求する活動を国家が正当化する論拠として「公共の福祉」という言葉が用いられ、この場合の「公共」には、国家によって権利の制限が解除されるという意味合いが含まれる。
2. J. ハーバーマスは、『公共性の構造転換』において、国家に対抗的に形成され、国家活動を批判的に監査する機能などをもつ「市民的公共性」を提起した。これは、18世紀に国家と社会が分離するとともに成立したが、19世紀後半には国家と社会の相互浸透による政治的機能の衰弱や、各種団体の広報活動の拡大とメディアの娯楽化・商業化によって「操作的公共性」へと転換した。
3. H. アーレントは、『アウトサイダーズ』において、公共性とは異質な他者が現前し、その他者との間で言葉や行為を介して相互の交渉が行われる場所であるとした。その上で、公共空間において異質な他者が逸脱のラベルを付与されることにより逸脱をエスカレートさせていく過程を「ラベリング」と名付けた。
4. R. セネットは、『ポストモダンの条件』において、公的生活が衰退し、人と人との親密さが道徳的善であるという信念が現代社会を支配しているとした。そして、公共性が「親密性の専制」によって崩壊し、「個人的なもの」への関心が「非個人的なもの」への関心によって制覇されている現状を「ポストモダン」と呼んだ。
5. G. P. マードックは、『親密性の変容』において、近代家族の特徴として家内領域と公共領域が分離された上での、女は前者・男は後者という性別分業などを挙げ、このような機能を求めて男女が結び付いていた近代家族を「ロマンティックな愛」に反するものであると批判し、現代は対等な他者との「純粋な関係」により家族関係が成り立つとした。

【No. 90】 次は、グローバリゼーションに関する理論についての記述を抜粋(一部省略)したものであるが、A～Eに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

ただし、解答に使用する語句は文脈に応じて斜体となるものとする。

なお、文中の [] については設問の都合上伏せてある。

Before the 1970s, social scientists tended to discuss the world's societies in terms of First, Second and Third worlds, based on their levels of [A] enterprise, industrialization and urbanization. The solution to Third World 'underdevelopment' was therefore thought to be more [], more industry and more urbanization. [B] rejected this dominant way of categorizing societies, arguing instead that there is one world economy and that all the societies within it are connected by [A] economic relationships. He described this complex intertwining of economies as the 'modern world-system', which was a pioneer of today's globalization theories.

《中 略》

The origins of the modern world-system lie in sixteenth- and seventeenth-century Europe, where [C] enabled countries such as Britain, Holland and France to exploit the resources of the countries they [D]. This allowed them to accumulate [], which was ploughed back into their economy, driving forward production and development. This global division of labour created a group of rich countries but impoverished many others, thus stunting their development. [B] argues that the process produced a world-system made up of a [E], a *periphery* and a *semi-periphery*. And although it is clearly possible for individual countries to move 'up' into the [E] or to drop 'down' into the semi-periphery and periphery, the basic structure of the modern world-system remains constant.

A	B	C	D	E
1. capitalist	Parsons	socialism	socialized	core
2. capitalist	Parsons	colonialism	colonized	border
3. capitalist	Wallerstein	colonialism	colonized	core
4. imperialist	Parsons	colonialism	colonized	core
5. imperialist	Wallerstein	socialism	socialized	border

No. 91～No. 95 はⅢ部**科目 12. 社会学(各論)**です。

科目 1 ～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 91】 行為に関する学説についての記述として最も妥当なのはどれか。

1. T. パーソンズは、社会的行為の四類型からさらに行為システム論(行為体系論)を展開し、行為システムのサブ・システム(下位体系)として、伝統的、感情的、価値合理的、目的合理的システム(体系)の四つを挙げ、それらが相互依存的に作動することによって行為システムが維持されるとした。
2. N. ルーマンは、社会システムの要素を従来のコミュニケーションから行為へと変換するとともに、社会システムが環境へと開放され、それに依存しながら自らの秩序を維持することをホッブズの秩序問題の解決と名付け、いわゆる主意主義的行為理論を展開した。
3. J. ハーバーマスは、コミュニケーション的行為としてドラマツルギー行為と戦略的行為の二つを挙げ、前者を功利主義に基づく行為、後者をシンボリックな表現行為とし、近代の病理の原因はドラマツルギー行為が戦略的行為に置き換えられることにあるとした。
4. P. ブルデューは、過去の体験の中から習得された性向として、心理的な知覚、思考、行為を可能にするある種の図式を意味する社会的性格を、社会変動のメカニズムを解明する理論の中心に置き、社会的性格が平準化した行為を生み出す型となり、文化的再生産が阻止されると主張した。
5. 合理的選択理論とは、行為者の合理的行為が集積した結果として社会現象を説明する理論であり、M. オルソンの集合行為論は、それまで非合理的で感情的な行為とみなされてきた社会運動を、合理的で理性的な選択として捉えたものであり、この理論は資源動員論の発展をもたらした。

【No. 92】 自己やアイデンティティ形成に関する学説についての記述ア～エのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

ア. G. H. ミードは、社会的相互作用による自己の形成について考察した。彼は、自己形成を、他者の反応や態度を取得し、それを自己に取り入れる過程と捉えた。自己は「インフォーマルな集団」の反応や態度を学ぶ段階から、「フォーマルな集団」の反応や態度を学ぶ段階へと移行する。そうすることによって、自己は社会の一員として自らの役割を理解し、状況の変化に左右されない確固とした「超自我」が形成されると考えた。

イ. E. H. エリクソンは、人間の欲求を五つの段階に分ける欲求論を展開した。彼によれば、人間としての基礎的な欲求である生理的欲求や安全欲求がある程度満たされると、所属と愛情の欲求、他者承認の欲求が満たされ、最後に自己実現の欲求が出現するようになるという。その中で、欲望が際限なく肥大化する「集合的沸騰」の危険性を指摘した。

ウ. W. リップマンは、第二次世界大戦後の米国における消費社会化に対応する性格構造として「内部指向」という概念を提起した。内部指向とは、工場労働のようなモノを対象にした生産活動に従事する人々が減少し、ホワイトカラーのように人を対象にした労働に従事する人々が増加していく中で、他人の動向に敏感に対応しながら、自らの行為を選択するような人格を表し、そのような人格が消費社会に適合的になってきていると主張した。

エ. A. ホネットは、個人の自己実現において「社会的承認」が不可欠であると主張した。彼は、社会的承認の主要な形態を、家族や恋人、親しい友人からの愛情による承認、法(権利)関係によって平等な個人として尊重される承認、価値共同体における貢献や能力が評価されることによる承認の三つに分類し、個人の自己実現は、他者からの承認によって形成される肯定的な自己関係によって可能になるとした。

1. ア
2. エ
3. ア、イ
4. イ、ウ
5. ウ、エ

【No. 93】 宗教に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. M. ヴェーバーは、行為者が支配に対してどのような正当性を認めるかという観点から、支配を宗教的支配、伝統的支配、合法的支配という三つに類型化した。これらの中でも、宗教的支配を人々が昔から存在する権威に対して抱く正当性によって成立する支配と定義し、宗教的支配の下では、専門的資格に基づいて任命され、明確な職務権限によって支配を支える合理的官僚制が日常的な業務を処理するとした。
2. NHK 放送文化研究所が国際比較調査グループ(ISSP)の一員として行った宗教に関する意識調査(日本分)の結果によると、冠婚葬祭の時だけの宗教ではなく、自分自身がふだん信仰している宗教について尋ねた質問に対し、「仏教」、「神道」、「キリスト教」、「その他の宗教」を信仰していると回答した人の合計は 2008 年の調査では 38 % であったが、2018 年の調査では 62 % に増加した。
3. É. デュルケムは、近代社会における社会的分業がもたらす社会の分化と社会圏の交錯によって、個人の個性に対する抑圧と「自由のない平等」によって特徴付けられる質的個人主義が誕生するものの、そのことがかえって、人格の尊厳や道徳的個人主義といった伝統社会に存在した宗教的規範を弱める結果を招くとした。その上で、弱まった規範を回復するためには、氏族に対する崇拜に代わる動物崇拜としてのトーテミズムが重要であると主張した。
4. 「海外の宗教事情に関する調査報告書」(令和 4 年・文化庁)によれば、米国の公共宗教調査研究所(PRRI)が 2021 年に公表した調査結果において、米国人の約 70 % がキリスト教徒を自認している。一方で、白人キリスト教徒は 1996 年には米国人の 65 % であったが、2006 年では 54 %、2020 年では 44 % と減少傾向にあり、その要因としてキリスト教の中でも保守的な信仰理解をもつ福音派プロテスタントの減少が指摘されている。
5. T. ルックマンは、H. ガーフィンケルとともに、社会は外化、対象化(客観化)、内在化という三つのプロセスが循環することによって維持されているとし、これまで科学やイデオロギーが、この循環過程において、社会的制度の正しさを保証する正当化装置として機能してきたのに対し、現代では脱私事化によって政治的影響力を強めた宗教がその機能を代替しているとした。

【No. 94】 M. フーコーの生権力に関する説明として最も妥当なのはどれか。

1. M. ヴェーバーの階級論を踏襲し、社会における支配構造の検討を経て、権力の多元的集中を示した概念である。M. フーコーは、地方や大都市の上流社会及び有名人の分析を行い、民主主義及び権力多元論について論じ、統治性の重要性を明らかにしたことで、ラディカル、リベラルをはじめとする当時の主要イデオロギーの提唱者の多くから支持を受けた。
2. 行為の原因を「人間の外側」にあるシンボル世界ではなく、心理的・生理的な「人間の内側」を観察することで捉えようとした概念である。後に心理学における帰属理論と重なりあいながらモーティヴ・トーク論へと展開され、人々が「知への意志」を失い、服従に抗する主体となっていることが示された。
3. 20世紀における欧米諸国の中間層は、社会において自己の労働の生産物として眺められる生産品をもたず、自己のセクシュアリティ・道徳・態度といった、「自分自身」を生活手段の一つとして使用していることを示した概念である。この概念によって、中間層は経済・政治・軍事の領域をそれぞれ代表する権力エリートであり、社会を支配していることが明らかになった。
4. 生命に対して厳密な管理統制と全体的調整とを及ぼそうとする概念であり、中でも国民全体の死亡率を低下させ、寿命を延ばし、出生率を上げることで、種としての人間の生物学的プロセスを考慮しつつ生命の状態を最適化するものを、M. フーコーは「国家による生命の調整」とした。
5. 人間と社会、個人生活史と歴史、自己と世界、言葉と物との相互浸透を把握するのに欠くことのできない精神の資質を示す、最も生産的なツールである。M. フーコーは、このツールによって、個人的問題の背後にいつも横たわっている構造的変化を、主体的に制御するような方向で対処することが可能になると主張した。

【No. 95】 メディア研究に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. M. マクルーハンは、情報の精細度が低く、受け手の参加度は高いテレビなどの電気メディアである「ホット・メディア」と、情報の精細度は高く、受け手の参加度が低い書物などの印刷物である「クール・メディア」の2種類を区別した。そして、テレビは個人を共同体から切り離し、地球全体で人々を小さな村のように分断させたとし、これを「グローバル・ヴィレッジ」と呼んだ。
2. P. F. ラザースフェルドは、大統領選挙における投票行動の調査や、マスコミによるキャンペーン効果の研究など、対面的な接触だけでなく、それらを介したメディアの影響なども含めた人間の行動を調査した。その結果から、マスメディアが人々の態度や行動に与える影響は直接的で強力である一方、対人接触が与える影響は限定的であると主張した。
3. N. ルーマンは、AGIL 図式の四つの機能に対応した「一般化されたメディア」として、貨幣、権力、影響力、価値コミットメントという四つを指摘した。すなわち、貨幣は経済(A)に、権力は政治(G)に、影響力は社会共同体(I)に、価値コミットメントは委託システム(L)にそれぞれ対応したメディアであるとし、「メディアはメッセージである」と述べた。
4. J. ボードリヤールは、印刷術や石版画、写真、映画などコピーを作る技術やメディアを複製技術と呼び、機械的複製技術の発達で、芸術作品が帯びていた「いま」「ここに」しかないという一回性、すなわち作品の「アウラ」を消失させていくと主張した。そして、芸術は大量複製されることで展示対象から礼拝対象へと機能が転換されるとした。
5. D. ダヤーンと E. カッツは、歴史的な出来事のテレビ生中継放送に着目し、メディアによって媒介されるイベントを「メディア・イベント」と提起した。オリンピックや大統領候補のテレビ討論、王室の結婚式や偉大な人物の葬儀、アポロ 11 号の月面着陸などを分析し、メディア・イベントによって社会の支配的価値が提示され、それによる新たな社会統合機能が働くことを評価した。

No. 96～No. 100 はⅢ部科目 13. 社会心理学です。

科目 1～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 96】 自己の表出に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- ア. 自己の姿を表出する行為として、自己開示と自己呈示がある。他者に対して、言語を介して自分自身に関する情報を伝達する行為は、自己開示と呼ばれる。自己開示が主として言語的な伝達を対象としているのに対して、自己呈示は、言語的な伝達だけでなく、非言語的な伝達も含んでいる。
- イ. I. アルトマンと D. A. テイラーによって提唱された社会的浸透理論とは、集団における多数派が少数派に影響を及ぼす過程を分析したものである。この理論によれば、多数派による意見の表明が少数派に影響を及ぼす過程では自律性や一貫性、堅固さ、公正さなどが必要とされ、少数派に多数派の意見が浸透して態度変容に至るまでには時間が掛かるという。
- ウ. 自己呈示の一つであるセルフ・ハンディキャッピングとは、ある課題を遂行する際に、その遂行結果の評価を明確にするために、課題遂行の妨害となる障害を自ら作り出すことをいう。セルフ・ハンディキャッピングは、自ら不利な状況を作り出す主張的セルフ・ハンディキャッピングと不利な状況にあることを訴える獲得的セルフ・ハンディキャッピングとに大別される。
- エ. E. E. ジョーンズと T. S. ピットマンは、主張的自己呈示を目標の違いから「取り入り」、「自己宣伝」、「示範」、「威嚇」、「哀願」の五つに整理した。自己にとって望ましい結果を得るために、「取り入り」、「自己宣伝」、「示範」は肯定的な印象を、「威嚇」、「哀願」は否定的な印象を他者に与えようとする自己呈示である。

1. ア、イ
2. ア、エ
3. イ、ウ
4. イ、エ
5. ウ、エ

【No. 97】 対人関係の形成や維持についての理論に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

ア. R. B. ザイアンスは、人が対象と繰り返し接触する中で言葉を交わすことによって、その対象に対する好意的な態度が形成される現象を単純接触効果と呼んだ。これに従うと、物理的な近接性は、出会いの頻度を高めるため、その対象に対する単純接触効果を生じやすくする。この単純接触効果は強固であり、接触する対象への元々の好悪にかかわらずに生じることが確認されている。

イ. 社会的交換理論とは、様々な対人相互作用を経済交換と捉えて理論化したものを指す。このうち、J. W. シボーとH. H. ケリーによる相互依存性理論は、報酬という概念を中心に据えた理論の一つである。この相互依存性理論によると、関係性の維持には、その関係から得られる報酬から関係に費やすコストを引いた値(成果)の大きさが重要である。

ウ. A. アロンとE. N. アロンの自己拡張モデルによると、人が親密な関係の開始や維持を望むのは、対象を包含することを通して自己を拡張させたいという自己拡張動機を満たすためである。A. アロンらは、自他が重なっている程度によって親密さを測定する1項目から成るIOS尺度(The Inclusion of Other in the Self Scale)を開発した。

エ. B. I. マースタインによる自己カテゴリー化理論は、親密な他者との関係の維持に、それ以外の他者との関係がどのように影響するかを説明している。親密な他者との関係は、それ以外の他者との関係との間でメタ・コントラスト比に基づいて比較され、親密な他者とそれ以外の他者との間の関係性の違いが強調されることで、関係維持が動機づけられるとした。

1. ア、イ
2. ア、ウ
3. ア、エ
4. イ、ウ
5. ウ、エ

【No. 98】 次の表は、囚人のジレンマ状況の一般型を示したものである。表中のA～Dに当てはまる得点の組合せとして最も妥当なのはどれか。

なお、表中のA～Dの得点は、それぞれの条件において、自分が得られる得点を示すものとし、得点の数値は一例とする。また、例えば、表中のAは、自分と相手のいずれもが「協力」を選択したことを意味する。

		相手の選択	
		協力	非協力
自分の選択	協力	A	B
	非協力	C	D

- | | A | B | C | D |
|----|------|------|------|------|
| 1. | 100点 | 0点 | 500点 | 300点 |
| 2. | 100点 | 500点 | 300点 | 0点 |
| 3. | 300点 | 0点 | 100点 | 500点 |
| 4. | 300点 | 0点 | 500点 | 100点 |
| 5. | 300点 | 100点 | 0点 | 500点 |

【No. 99】 産業・組織心理学の用語に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

ア. D. A. ノーマンは、一連の行動を計画(意図形成)する段階と計画を実行する段階に分け、不適切な計画を立ててしまった失敗をスリップ、実行段階で計画通りに行うことができなかった失敗をミステイクとした。また、ミステイクの中でも、計画した行動が無意識のうちに日頃よく慣れている別の行動に取って代わられたエラーをラプスと呼んだ。

イ. G. B. グラーエンらは、リーダーシップの基本体系を「リーダー」、「リーダーと相互信頼関係にある内集団メンバー」、「リーダーとの関係が良好でない外集団メンバー」の3者関係で捉えたリーダーメンバー交換理論を展開した。この理論は、リーダー行動のパターンをP(課題達成)機能とM(集団維持)機能に分類し、前者は内集団メンバーと、後者は外集団メンバーと交換されるとする。

ウ. F. H. ホーキンスのSHELモデルは、システムを構成する要素である人間や機械、環境などを表したものであり、Sは「ソフトウェア」、Hは「ハードウェア」、Eは「環境」、Lは「ライブウェア(人間)」を指す。そして、Lを中心にし、各要素を周辺に配置してヒューマンファクターズの問題を考える。後に提案されたm-SHELモデルにおけるmは、「マネジメント」の要素を表している。

エ. R. T. マウディらは、組織コミットメントを、①組織の目標や価値に対する信頼と受容、②組織の代表として進んで努力する意欲、③組織の一員としてとどまりたいとする強い願望、によって特徴付けられる、組織への同一視や関与の相対的な強さと定義した。マウディらの定義は情緒的な側面を強調しており、組織コミットメントを組織への愛着と捉えている。

1. ア、イ
2. ア、エ
3. イ、ウ
4. イ、エ
5. ウ、エ

【No. 100】 社会心理学における実験や研究に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 人に対する印象形成の実験を行った S. E. アッシュは、全体的な印象を部分に還元できるものとして捉えるゲシュタルト・モデルを示し、印象形成のメカニズムを説明した。アッシュは、このモデルから、個々の特性を周辺特性と呼び、これらを単純に合計することによって人の全体的印象が形成されるという情報統合理論を提案した。
2. 対人認知の研究を行った F. ハイダーは、知覚者、他者、対象の三者関係に着目した A-B-X モデルから、バランス理論を提唱した。この理論では、三者関係がそれぞれ「+」と「-」で表され、三つの符号が全て+の場合は均衡状態、それ以外は不均衡状態となる。人は不均衡状態に陥ると心情を変化させることが難しくなるため、不均衡の解消には至りにくいことが示された。
3. 社会的影響の研究を行った S. ミルグラムは、一連の実験的研究から権威に対して服従する心理を検討し、服従が生み出される過程の一つとして、代理状態への移行を指摘した。これは、個人が自分自身を他者の要求を遂行する代理人とみなす状態のことであり、代理状態において、個人は他者に責任転嫁を行い、自分の行動に責任を感じなくなるとされる。
4. 他者が個人に与える影響について実験を行った N. トリプレットは、難しい課題を遂行する際に、他者の存在によって課題成績が阻害される現象である社会的手抜きを発見した。また、その後の研究から、単純な課題遂行においては、実験参加者間で積極的な相互作用が働くことによって課題遂行が促進されるという現象である社会的促進も確認された。
5. 労働環境と生産性に関するホーソン研究を行った E. メイヨーは、高い生産性の維持には、従業員の感情よりも、照明や休憩時間などの物理的労働条件の改善が大きく影響することを見いだした。また、その後の研究から、職場内のインフォーマルな集団やその規範よりも、フォーマルな集団やその規範の方が、従業員の生産性に影響を与えることも示された。

No. 101～No. 105 はⅢ部**科目 14. 現代社会論**です。

科目 1～科目 14 のうちの任意の 4 科目を選択し、合計 20 題を解答してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 101】 次は、ソーシャルメディアに関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

現代社会において、ソーシャルメディアは、友人や家族と連絡を取り合ったり、仕事上のやり取りをしたり、ニュースや趣味に関する情報を収集したりするなど、多様な用途で利用されている。しかし、これらの利便性の一方で、様々な問題点も指摘されている。

一つは、**A**に関する問題である。ソーシャルメディアにより、ユーザーの個人情報が企業に収集され、様々な用途で用いられている。例えば、ユーザーの興味・関心に基づいて関連性の高いコンテンツを表示するパーソナライゼーションや、ユーザーの興味や行動パターンに基づいてカスタマイズされたターゲティング広告などである。このようなユーザー情報の利用のされ方が**A**の侵害であると批判されることがある。

次に、**B**の問題がある。これは、アテンション(関心)獲得のために構築されたアルゴリズム機能により、ユーザーが自分の好む情報のみを受け取る傾向が強まり、異なる意見や視点に触れる機会が減少する事態を指している。この現象は、ソーシャルメディアにおいて、ユーザーが自身の信念を強固にする一方で、異なる視点や立場の人たちとの断絶が深まり、社会全体の**C**を助長する側面があると指摘されている。

また、**D**の拡散も大きな問題になっている。ソーシャルメディア上では、信頼性の低い情報が拡散され、誤った情報が事実として受け入れられることがある。このような事態により、ユーザーの判断力が損なわれ、社会的混乱を引き起こす可能性が指摘されている。

A	B	C	D
1. 表現の自由	フィルターバブル	一極化	フェイクニュース
2. 表現の自由	バックラッシュ	分極化	マルウェア
3. プライバシー	フィルターバブル	一極化	マルウェア
4. プライバシー	フィルターバブル	分極化	フェイクニュース
5. プライバシー	バックラッシュ	一極化	フェイクニュース

【No. 102】 都市と地域社会に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 郊外とは、都市の周辺領域のことを指す。我が国の郊外住宅地の開発としては、日本住宅公団（現・都市再生機構）による団地の造成が象徴的であり、第二次世界大戦直後に造成が本格化した。当初、団地の住民は貧困層が中心だったが、1980年代から富裕層へと移り変わり、現在では様々な趣味や文化などの社会活動が活発に行われている。
2. C. フィッシャーは、『都市のイメージ』において、空間認知における基本的要素を指摘し、1950年代のロサンゼルスなどを対象に、都市のメンタル・マップを描き出した。そして、「生活様式としてのアーバニズム」という視点に立ちながら、近代都市の特性を空間的分化や第一次的関係の弱体化として指摘した。
3. ゲーテッド・コミュニティとは、高齢者人口が半数を超えた社会的共同生活の維持が困難な状態の地域のことを指し、R. フロリダによって提唱された。①集落機能の低下による住民生活維持の困難化、②高齢者の独居生活・福祉問題、③生産活動の弱化・解体、④地域振興の担い手となる人材の欠如などの課題を重層的に抱えている。
4. 同心円地帯理論とは、モータリゼーションの普及に伴う都心部の空洞化及び市街地の衰退に対し、再開発の手法として商業・文教、居住施設の都心回帰を促し、都心部や市街地に人の流れやにぎわいを取り戻そうとする理論である。E. ハワードによって提唱され、我が国では、青森市や仙台市、神戸市などにおけるまちづくりに応用されている。
5. ジェントリフィケーションとは、大都市内部のインナーシティが再開発され高所得層が居住する現象である。東京や大阪などの大都市においては、ジェントリフィケーションによって、富裕層をターゲットとした高層マンションの建設が進んでいるが、従来の居住者の立ち退きや排除を引き起こしたり、周辺部との経済的格差の拡大などといった問題を生み出している。

【No. 103】 観光に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. シカゴ学派の人間生態学とは、当初、1960年代にガラパゴス諸島や原生自然を誇る国立公園などの価値の高い自然環境に対する学術研究を目的としたフィールドワークを意味した。その後、マス・ツーリズムや学術調査が逆に環境への負荷を高めている現実が問題化されたことにより、自然環境や文化遺産を対象とする、環境に配慮した研究活動を意味するようになった。
2. D. マキャーネルは、1950年代から70年代にかけて主流であったエコツーリズムの影響で、本物としての観光対象を求める代わりに、心の底から遊びを楽しむようになった観光客が出現することにより、ディズニーランドのような大規模娯楽施設が生み出されるようになったと主張した。そして、観光客は観光用の表舞台ではなく演出されていない舞台裏を体験することを望んでいるとしたJ. アーリを批判した。
3. A. R. ホックシールドは、航空会社に勤務する客室乗務員に対する調査を踏まえ、職務に応じた感情の維持と表現を行うことが要求される労働を感情労働と呼んだ。こうした労働の在り方は、旅行業、宿泊業、飲食業、運輸業、観光施設業など、ホスピタリティを重視する観光関連産業において、顧客の情緒的満足感が強調されるようになるにつれ、同産業に従業する人々に強く求められるようになっていく。
4. オーバーツーリズムとは、国連世界観光機関の定義によれば、観光地を一度訪れた訪問客がその後もリピーターとして繰り返し同じ場所を旅行することを意味する。我が国は、インバウンド受入を推進する観点からこれを積極的に支援し、空港業務の省力化、自動化、効率化と並んで、新型コロナウイルス感染症の影響で低迷していた訪日クルーズの回復に向けた環境作りにも取り組んでいる。
5. 宗教上の聖地や宗教施設を訪問することを巡礼と呼ぶが、近年では若者を中心にアニメ等に描かれた場所を聖地とし、そこを訪れるアニメ聖地巡礼という新たな行動がみられるようになった。こうした行動は、対象作品が個人の趣味の域を出ず、その多くが国内のものであることから、海外からの注目度も低く、情報の発信、共有、蓄積がなされにくいために、インターネットの普及がもたらす影響は小さい。

【No. 104】 我が国の社会動向に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 「労働力調査」(総務省)によると、非正規の職員・従業員数については、平成 22 年以降増加が続いていたが、令和 2 年以降令和 5 年に至るまで、減少している。また、令和 4 年の非正規の職員・従業員の割合*¹について男女別にみると、男女ともに 20 % 台前半となっている。
2. 『令和 5 年版 犯罪白書』によると、年間の交通事故の発生件数は、平成元年で約 60 万件であったところ、令和 4 年にかけて増加し続け、100 万件を超えた。このような交通事故の増加状況を背景として、同年に自動車運転死傷処罰法*²が制定され、同法において悪質・危険な運転行為による死傷事件について罰則規定が整備された。
3. 令和 3 年改正のプロバイダ責任制限法*³において、インターネット上での違法・有害情報の流通により権利を侵害された者による発信者情報の開示請求の規定が設けられた。ただし、SNS 上の誹謗・中傷については、一般的にその流通と権利侵害との間に因果関係があるとは想定されないことから、同法の対象からは除くものと定められている。
4. 『令和 5 年版 高齢社会白書』によると、労働力人口総数に占める 65 歳以上の者の割合は、平成 30 年は約 13 % であったところ、令和 4 年には約 8 % となり、高齢の生活習慣病患者や認知症患者の増加により平成 30 年以降減少傾向となっている。
5. 令和 5 年 4 月に施行されたこども基本法において、こども施策は全てのこどもについて、その年齢及び発達に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会が確保されること等を基本理念として行われなければならない旨が規定されている。

* 1 「正規の職員・従業員」と「非正規の職員・従業員」の合計に占める割合

* 2 自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律

* 3 特定電気通信役務提供者の損害賠償責任の制限及び発信者情報の開示に関する法律

【No. 105】 自殺に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- ア. D. ベルは、『危険社会』において、近代化の失敗によってグローバル規模で生命を危険にさらす人工的な災害、例えば原発事故や地球温暖化などが生じるようになったと主張し、これらの災害の脅威にさらされた人々は自殺のリスクが高まることを、統計資料の詳細な分析から明らかにした。
- イ. É. デュルケムは、『自殺論』において、社会に原因が求められる自殺として、自己本位的自殺、集団本位的自殺、アノミー的自殺、宿命論的自殺を指摘している。社会的規制が過度に弱い状態はアノミーと呼ばれ、人々の欲望が社会によって規制されていない状態を意味し、アノミー的自殺は、このような状況下で発生するとしている。
- ウ. 『令和5年版 自殺対策白書』によると、令和4年の我が国の自殺者数は3万人を超えており、前年と同水準となっている。男女別に自殺者数をみると、女性の方が男性よりも多く、約2倍となっている。職業別にみると、総数では「無職者」が最も多く、原因・動機別にみると、総数では「経済・生活問題」が最も多く、次に「家庭問題」が続いている。
- エ. 我が国では、総合的な自殺対策を推進するため、平成18年に自殺対策基本法が制定された。令和4年には第4次自殺総合対策大綱が閣議決定され、コロナ禍の自殺動向も踏まえつつ、これまでの取組の充実に加えて、①子ども・若者の自殺対策の更なる推進・強化、②女性に対する支援の強化、③地域自殺対策の取組強化、④総合的な自殺対策の更なる推進・強化の四つの柱に取り組むこととされている。

1. ア
2. エ
3. ア、ウ
4. イ、ウ
5. イ、エ

科目別構成の詳細

科 目	出題数	問題番号	ページ	解答題数
I部 必須問題	5題	No. 1～No. 5	1～5	5
II部 選択A、選択Bから一つ選択	(30題)	(No. 6～No. 35)	(7～37)	15
選択A(心理系)	15題	No. 6～No. 20	7～21	
選択B(教育・福祉・社会系)	15題	No. 21～No. 35	22～37	
III部 14科目から4科目選択	(70題)	(No. 36～No.105)	(39～111)	4科目選択 20
科目 1. 認知心理学	5題	No. 36～No. 40	39～45	
科目 2. 臨床心理学	5題	No. 41～No. 45	46～50	
科目 3. 教育環境学	5題	No. 46～No. 50	51～56	
科目 4. 教育心理学	5題	No. 51～No. 55	57～61	
科目 5. 教育経営学	5題	No. 56～No. 60	62～66	
科目 6. 教育方法学	5題	No. 61～No. 65	67～71	
科目 7. 社会福祉総論	5題	No. 66～No. 70	72～76	
科目 8. 社会福祉各論	5題	No. 71～No. 75	77～81	
科目 9. 福祉計画論	5題	No. 76～No. 80	82～86	
科目10. 地域福祉論	5題	No. 81～No. 85	87～91	
科目11. 社会学(理論)	5題	No. 86～No. 90	92～96	
科目12. 社会学(各論)	5題	No. 91～No. 95	97～101	
科目13. 社会心理学	5題	No. 96～No.100	102～106	
科目14. 現代社会論	5題	No.101～No.105	107～111	
合 計				40

解答方法

I部の必須問題5題(No. 1～No. 5)を全て解答するとともに、II部の選択A又は選択B(それぞれ15題ずつ)からどちらか任意の一つ、及び、III部の14科目(各科目5題ずつ)から任意の4科目(20題)を解答し、合計40題を解答してください。

<出典>

・No.9

Basic Vision: An Introduction to Visual Perception by Robert Snowden, Peter Thompson, Tom Troscianko © R. Snowden, P. Thompson, and T. Troscianko 2012. Reproduced with permission of Oxford Publishing Limited through PLSclear.

・No.11

7.4: Changing Behavior Through Reinforcement and Punishment- Operant Conditioning, from The LibreTexts. Licensed under CC BY-NC-SA 3.0.

・No.12

Used with permission of American Psychological Association, from "Mood, misattribution, and judgments of well-being: Informative and directive functions of affective states" from Journal of Personality and Social Psychology, Vol. 45, Issue 3, ©1983; permission conveyed through Copyright Clearance Center, Inc.

・No.16

高橋三郎、大野裕、染矢俊幸、神庭重信、尾崎紀夫、三村將、村井俊哉、中尾智博、「DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル」、医学書院

・No.28

Sociology 8th Edition by Anthony Giddens, Philip W. Sutton. Copyright © Anthony Giddens and Philip W. Sutton 2017. Reproduced with permission of Polity.

・No.36

Used with permission of Cengage Learning, Inc., from Cognitive Psychology: Connecting Mind, Research, and Everyday Experience, E. Bruce Goldstein, Greg Francis, Ian Neath, ©2010; permission conveyed through Copyright Clearance Center, Inc.

・No.41

高橋三郎、大野裕、染矢俊幸、神庭重信、尾崎紀夫、三村將、村井俊哉、中尾智博、「DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル」、医学書院

・No.45

高橋三郎、大野裕、染矢俊幸、神庭重信、尾崎紀夫、三村將、村井俊哉、中尾智博、「DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル」、医学書院

・No.45

「心身医学の新しい診療指針」、日本心身医学会教育研修委員会

・No.47

Unesco Universal Declaration on Cultural Diversity by UNESCO. Reproduced with permission of UNESCO.

・No.53

高橋三郎、大野裕、染矢俊幸、神庭重信、尾崎紀夫、三村將、村井俊哉、中尾智博、「DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル」、医学書院

・No.54

藤村宣之、「数学的・科学的リテラシーの心理学」、有斐閣

Working Memory and Learning: A Practical Guide for Teachers by Susan E. Gathercole, Tracy Packiam. Reproduced with permission of SAGE Publications Ltd.

湯澤正通、湯澤美紀、「ワーキングメモリと学習指導」、北大路書房

・No.90

Sociology 8th Edition by Anthony Giddens, Philip W. Sutton. Copyright © Anthony Giddens and Philip W. Sutton 2017. Reproduced with permission of Polity.

C1C2-2025 人間科学 専門 (多肢選択式)

正答番号表

No	正答	No	正答	No	正答	No	正答
1	3	31	1	61	1	91	5
2	3	32	3	62	5	92	2
3	1	33	2	63	3	93	4
4	4	34	1	64	1	94	4
5	2	35	3	65	2	95	5
6	4	36	4	66	3	96	2
7	3	37	2	67	1	97	4
8	4	38	1	68	3	98	4
9	2	39	3	69	3	99	5
10	1	40	3	70	5	100	3
11	2	41	4	71	4	101	4
12	2	42	5	72	5	102	5
13	1	43	3	73	4	103	3
14	4	44	5	74	4	104	5
15	2	45	3	75	2	105	5
16	5	46	2	76	4		
17	1	47	1	77	5		
18	1	48	4	78	1		
19	3	49	2	79	3		
20	5	50	1	80	3		
21	1	51	1	81	2		
22	4	52	5	82	1		
23	5	53	1	83	4		
24	4	54	1	84	3		
25	2	55	2	85	5		
26	2	56	3	86	2		
27	5	57	2	87	3		
28	4	58	5	88	3		
29	2	59	5	89	2		
30	1	60	4	90	3		